

尚 和 会 報 2012

平成24年5月1日

思い出とともに広がる同窓の輪
 母校は今年で創立75周年を迎えました (昭和12年1月22日創立)



「しだれ桜」観賞会 平成24年4月7日

尚和会総会のご案内 平成24年5月20日(日)

ホテルアイボリーにて(豊中駅東口すぐ ☎06-6849-1111)

- ◆総会……………オーキッドホール 12:00~12:45
- ◆アトラクション…プティ・タ・プティ女声アンサンブル… 13:00~13:30
- ◆懇親会(食事はシッティング・buffestail)… 13:35~15:30
- ◆お楽しみ抽選会
- ◆会費…4,000円(2008年高60期定58期以降の卒業生は2,000円)

<Petit à Petit (プティ・タ・プティ)のプロフィール>

1989年1月、神戸女学院大学音楽学部声楽専攻卒業生による女声アンサンブルを結成。合唱にとどまらず独唱、重唱と多彩な編成で、宗教曲からポピュラーまで幅広いレパートリーをこなす。

多くの演奏会や催しで、親しみやすい演奏と美しいハーモニーで好評を得ている。2003年CD製作。2009年20周年記念コンサート。2010年シンガポール公演。2011年東日本大震災チャリティーコンサート。



末廣 孝子(桜塚高校25期生)

神戸女学院大学音楽学部声楽専攻卒業。同研究生修了。当日はいつも一緒に演奏活動をしているプティ・タ・プティと共にコンサートをお届けします。また、演奏する曲の編曲は丸尾 喜久子さん(桜塚高校24期生。神戸女学院大学音楽学部作曲科卒業。作曲家。現在、関西学院聖和短期大学教授。)によるものです。

曲目は「鞠と殿様」「ちんちん千鳥」「汽車ぼっぼ」オペラ椿姫より「乾杯の歌」など。

Contents

尚和会会長・校長ごあいさつ……………	2
学校だより……………	3
教職員人事異動……………	6
母校クラブだより……………	6
投稿記事……………	7
尚和会通信・各期連絡先……………	10
新役員紹介……………	11
尚和会決算・予算報告……………	11
同期会報告……………	12
同期会開催予告……………	17
お便りから……………	18
平成23年度 新年理事会、評議員会報告 ……	20
物故者芳名簿……………	20
平成23年度会報代・協力金 ……	20
平成23年度総会・懇親会 ……	24

発行——尚和会

発行責任者 大畠 光昭(高15期)

編集責任者 高崎 健治(高37期)

会長挨拶



尚和会会長
大島 光昭
(高十五期)

この度、平成二十四・二十五年度の尚和会会長として三期末（二期二年）の会長職を拝名し、更に身を引き締め新役員共々会員相互の連絡と親睦を図り、母校の発展に寄与する所存です。

母校は今年で創立七十五周年を迎え、（母校の在る豊中市も市制施行七十五周年です。）尚和会会報も六十号を発行することが出来ました。

記念事業として、恩露園、恵風苑の整備事業に着手します。昨年度は尚和会館の温水洗浄便座トイレ設置、大職員室設置に伴うOA床工事、トレーニングマシン購入などの費用援助をいたしました。

今年も三百四十六名の卒業生が新たに新会員として迎えることが出来ましたことは誠に喜ばしい限りです。母校三年間で培った教養と実力、そして若々しいエネルギーはきつとこれからいろいろな困難を乗り越えられると思います。

甚大な被害をもたらした東日本震災から一年が過ぎ、遅々として進まぬ瓦礫処理他、さまざまな復旧復興に対しささやかなことでも、人を思い遣る心、そして絆を大切にして支援してい

ただきたいものです。

昨年八月の猛暑の中、被災地岩手県大槌町へ本校生十一名と引率教員一名が、豊中市職員と共にボランティア活動に参加したことは地域連携の一つとして感動させられました。

会報表紙にもある「想い出とともに拡がる同窓の輪」を今後も益々大きくしていくためにも、「同期会開催支援奨励助成金制度」を大いに活用していただきたいと思っております。

同期会開催により、会員の住所把握が明確になり、会員全体の住所リストの整備に大変役立っております。

平成十一年度より会報の発送は、有料制に踏み切り、会員各位のご厚志により、協力金も含めての納付で、爾来、財務状況も年々安定しつつあります。

来る五年後の八十周年記念に向け、尚和会が府立高校屈指の同窓会組織であると自負出来るよう、今後共どうか会員皆様方のご理解ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。



2012年桜塚高校は



桜塚高校校長
小山 正辰

遅い春がようやくやってきました。恩露苑の枝垂れ桜がようやく花開き、来週には正門の枝垂れ桜も満開になる事でしょう。入学式にはたくさんの方で新しい同窓生を迎えます。

昨年12月、本校HPをリニューアルしました。

これまで以上に生徒たちの動向が、よりスピーディーに、詳しくお伝えできるよう更新の煩雑さを解消すべく、4月にさらにバージョンアップいたします。

生徒たちは、相変わらずがんばっています。

関関同立の合格者は20人増。特に現役の合格率が上昇しました。

日頃お世話になっている地域の皆さんとの交流も一段と進みました。

昨年始まった「岡町・桜塚商店街横断幕アート」は今年も3月15日から4月いっぱいまで開催されます。加えて、軽音楽部が作詞作曲した岡町・桜塚商店街応援ソング『おかまち桜いろ』は、軽快でとても耳触りのよい曲になっています。商店街では毎日流す、と言ってくださいていますので是非お聞きください。

4月のHPに記した文章を再掲します。

「2月29日、310名が巣立って行きました。

3月15日、1、2年生がそれぞれ2、3年生に進級する終業式を迎えました。

3月23日、360名の新入生の合格が発表されました。

4月2日、13人の教職員が退職、異動により本校を去り、21人の新しいスタッフ（非常勤教職員を含む）が本校を支えるためにやってきてくれました。

3月、4月は「桜」と共にやってきて、過ぎていきます。

新しい場所で卒業生もまた意欲をみなぎらせていることでしょう。

2、3年生も新しいクラス、新たな担任で新年度を迎えます。

新入生は新しい制服に身を包み、新しい靴の紐を「キツ」と結ぶ事でしょう。

4月から1単位時間が増え、月・水曜日が7限となります。

下校時刻は毎日17:45とし、少し延ばしました。

3月の終業式の日、私は生徒たちに、

2012年 桜塚高校は

明日へ備え、文部^{ぶんぶ}両道をめざす！

という言葉を校長室に掲げた、と話しました。

明日（＝あした&将来）に備え、学習や生活、を日いっぱい、きちんとや

る。

文（＝学習）も部（＝部活動）も両立して日いっぱいやる。

明日という未来を、自分の夢に引き寄せてみせる、という宣言である、と。

今年も、桜塚高校の生徒に期待してやってください。

彼らは、きっとやります。

尚和会の皆様、今年もよろしく願います。

（4月2日、年度のはじめの日）

ご挨拶



定時制の課程 准校長
加藤 孝之

尚和会会員の皆様、平素は定時制の課程の教育活動にご理解とご協力そしてご支援を賜りありがとうございます。

私は昨年の4月に赴任してきましたが、あつという間に1年が過ぎました。

本校定時制の課程の様子について少し紹介させていただきます。本校定時制の課程は先生方の献身的な指導があり、とてもアットホームな雰囲気の中で前向きに日々の学習活動が行われている、素晴らしい学校です。日々の授業は勿論ですが、部活動や球技大会、文化祭、修学旅行等の各種行事も生徒達が非常に盛り上がりつつ積極的に関わっています。その中でも特に運動部の活動が盛んで実績を残しています。放

課後の限られた短い時間ですが、先生方の指導の下、生徒達は体育館や運動場で毎日一生懸命に練習をしています。

その結果、昨年は陸上部が6年連続で全国大会に出場し、女子バレーボール部が府予選で優勝し、初めて大阪代表として全国大会に出場を果たしました。また、近畿大会にはこの両クラブに加えてバドミントン部が大阪代表で出場しました。全国大会そして近畿大会出場に際しては、尚和会様からご支援を賜り心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

部活動に関しては、これら3クラブに加えて野球部、バスケットボール部、サッカー部、卓球部、テニス部、日本拳法部、空手道部等のクラブの頑張りもあり、昨年度は大阪高等学校総合体育大会定時制・通信制課程の部で女子が総合優勝し、男子は総合準優勝するという大変な栄誉を獲得することができました。立派なカップと優勝旗が准校長室に飾られていますので、本校にお立ち寄りの際には是非覗いて下さい。また、大きな賞状は事務室前陳列ケースに入れていますので、ご覧ください。

学習面では今年度から生徒の基礎学力を更に充実させる為に、数学科を中心に短時間繰り返し学習である「モジュール授業」を実施することになっています。単位認定を伴う「モジュール授業」としては大阪府立高校で初めて

の試みであり、モデルケースとして注目されています。生徒の基礎学力充実の為に少しでも役立つことになればいいと期待しています。

さて、本校定時制の課程には様々な目的や事情を持ちながらも一生懸命頑張っている生徒がたくさん在籍しています。それらの生徒一人ひとりに寄り添い、きめ細かく丁寧な指導に努め生

学校だより

定62期生を送り出して

担任 内田 浩文

今から4年前に（中には5、6年前）62期生と一緒にスタートしました。

定時制は毎年5月の土曜日のお昼に遠足があります。仕事の都合などで全員が参加できるわけではありません。また、行き先についても貸し切りバスを利用するとか遠方に行くことができません。万博公園、服部緑地、五月山動物園などに行きました。元氣な学年だったこともあり、近場でありながらみんな楽しんでいました。7月には球技大会があります。バレーボールが主ですが、選抜チームと親睦チームに分かれて、ほぼクラス全員が参加して戦います。1、2年次では体力的なこともあり、上の年次に惜しくも負けていましたが、3、4年次には持ち前の元氣とチームワークで連続して優勝しまし

徒たちの個々の力をさらに伸ばすために、今後も教職員とともに一丸となつて微力ながら全力で努力していきたいと考えています。

今後とも尚和会会員の皆様には本校定時制の課程の一層の発展の為に、今まで以上に協力とご支援をよろしくお願いいたします。

た。62期生は団結力が強く燃え上がりました。3年次の修学旅行では2泊3日で沖縄に行きました。定時制生活の中でみんながもつとも楽しみにしている行事の一つです。仕事をしている生徒もこの日ばかりはと都合をつけて参加します。残念ながら、都合がつかなかったり諸般の事情で参加できなかった生徒もいます。飛行機の中の不安そうな顔、朝食時の眠そうな顔、ビーチではじけた笑顔、ひめゆりの塔での真剣な顔が印象的です。就労経験のある生徒が多いせいか各々が自覚を持ち行動したおかげで、教師としては手のかからない修学旅行でした。

もうひとつの大きな行事が卒業式です。「勉強と仕事の両立」と言葉では簡単だが、定時制の4年間をへて卒業するということは、すごく大変で立派なことです。入学時に撮ったクラス写真と、卒業式に撮ったクラス写真を見

比べればわかります。卒業生を取り巻く社会環境は相変わらず厳しいものです。しかし、62期生みんなにはその中をがんばりぬく力を感じます。

高64期 三年間を終えて

三学主任 桑田 誠

64期のみなさん、卒業おめでとう！期待と不安の中、始まった学校生活ですが、数々の行事でクラスの団結ができていき、少しずつ桜塚生になつてきた1年生でした。

2年では何といつても修学旅行。宮古島の方々のあたたかい歓迎を受け、交流を深めたと思います。皆で見た満天の星空、天の川は多くの人の記憶に残ったのではないのでしょうか。

3年では体育祭。団長・副団長が決まらないクラスもあり、ハラハラしたこともありましたが、「髪を染めない、いじらない」といった方針を団長会議で決め、それを下級生にも徹底させ、各団ともすばらしいまとまりを見せてくれました。閉会式での校歌斉唱で肩を組んで歌う姿をみて、私は涙しました。

文化祭では受験勉強もある中、各クラスとも準備・練習をし、いいものに仕上げてくれました。

学習面では1年の試験前に自習室を開くと多くの生徒が参加し、「勉強しなければ」という意識を高めてくれました。1回1回の授業においても真剣

に取り組み、自分の持っている力を少しずつ高めていったと思います。3年体育祭の後からの受験勉強への切り替えもうまくできたと思います。授業が自習の時には水を打ったような静けさでしたし、昼のE教室、F教室は自習ができる雰囲気をつくってくれました。ただ、2学期後半から欠席・遅刻・早退が多くなり、残念に思いました。

64期の皆さん、高校生活はいかがでしたか？ 多くの人に「楽しかった」「よく頑張れた」といつてももらえれば、担任として、教員としてとてもうれしいことです。しかし、皆さんの人生はまだまだこれからです。いま以上に楽しいこと、大変なことはあると思いますが、高校生活で得たものを忘れないで下さい。ときどき訪ねてきてくれ、近況報告などしてくれるとうれしいです。また、尚和会の一員として桜塚高校を見守ってください。

東日本大震災被災地の岩手県大槌町支援ボランティア活動に参加しました

2011年8月

桜塚高校生11名、豊中市ボランティアバスで

本校生徒11名と引率教員1名が、豊中市職員23名とともに豊中市ボランティアバスで東日本大震災の被災地岩手県大槌町へ行き、ボランティア活動に

桜塚高校・尚和会共催 「しだれ桜」観賞会 地域の皆様とともに

会長 大畠 光昭

去る四月七日（土）学校と尚和会共催で初めての試みとして、毎春正門前に地を掃かんばかりに咲き誇る見事な枝垂れ桜を、地域の皆様にも間近で観ていただこうと、母校の吹奏楽部、茶道部、箏曲部の協力のもと、午前十時後二時までの間、正門前を開放しほぼ満開の枝垂れ桜の観賞会を開催いたし



来場者へのお礼の挨拶（小山校長、大畠会長）



お世話いただいた学校、茶道部、箏曲部、尚和会の面々



茶道部のおもてなし



ました。
午前中は桜冷えの薄陽さす天候でしたが、午後からは晴天に恵まれ、OBの方々や在校生、正門前を行き交うお年寄りや、子供連れの乳母車を押した若いお母様方、若いカップル達が琴の音色に足を止め、尚和会役員連中の声掛けで次々と会場内へ。
近くの保育園児達は引率の先生と共にお弁当を開ける風景も見受けられました。
茶道部のお手前による抹茶と和菓子に舌鼓を打ちながら、箏曲部の演奏に聴き入っていただけでした。

この鑑賞会を思いついたのは開催の二週間前のこと。学校側に申し出ると全面的に協力するからとの快諾を得て、十分な準備期間（PRを含めて）もないまま、当日は雨だけは降ってくれないなど、週間天気予報と開花情報を気にしつつの毎日でした。
ご来場いただいた地域の皆様からは大変喜ばれ大盛況の観賞会でした。
これを機に来年も是非整備された恵風苑・恩露園のある中庭で、ここにも咲き乱れる染井吉野や枝垂れ桜の下での観賞会を、桜塚高校の恒例行事として根付かせてゆきたいと思っています。

主な学校行事

平成二十四年度主な行事

校内理事 桑田 誠

在校生の元気な姿を見に来て頂きたいです。本年度は3月の入試日程が従来とは異なるため、特に年度末の行事の変更が見込まれます。

【全日制】

- 5月10日、11日 授業公開
- 5月28日～6月8日 教育実習期間
- 6月7日（木） 体育祭予備日は8日
- 7月20日（金） 終業式
- 8月21日（火） 3年授業開始
- 9月3日（月） 1・2年授業開始
- 9月15日（土） 文化祭
- 10月2日～5日 2年修学旅行
- 10月5日（金） 芸術鑑賞
- 10月27日（土） 学校見学会
- 12月21日（金） 終業式
- 1月24日（木） 1年合唱コンクール
- 2月28日（木） 卒業式
- 15日（金） 終業式

【定時制】

- 5月19日（土） 遠足
- 6月19日～25日 授業公開
- 7月9日～19日 球技大会
- 10月10日（水） 後期始業式
- 10月25日・26日 文化祭
- 10月29日～31日 3年修学旅行
- 2月28日（水） 卒業式
- 3月22日（金） 終業式

この一年間の 進路状況について

進路指導部長 谷口 亮

今年卒業した六十四期生も、長期にわたる入試の日々を最後までよく健闘し、多くの生徒が希望進路を実現しました。また、就職・公務員希望の生徒も、粘り強くがんばり目標を達成しました。

入試が近づくにつれ、放課後の講習に熱心に聞き入る姿や、廊下で質問する生徒を目にすることも多くなりました。進路閲覧室では、始業前の自習を日課とする生徒、毎日下校放送まで勉強を続ける者、また、三月半ばまで後期試験対策に取り組む生徒達の姿が見られました。今年度は関西大学・近畿大学・同志社大学の合格者が大幅に増加しました。関関同立合格者数は現役のみで一五五名、産近甲龍が同じく二〇二名でいずれも過去十年間で最高を記録しました。

二〇二二年度入試合格者数（浪人含む）

国公立大学		主な私立大学	
信州大	1	関西大学	101
神戸大	1	関西学院大学	53
鳥取大	1	同志社大学	35
大阪府立大学	3	立命館大学	20
大阪府立大学	2	甲南大学	55
兵庫県立大学	1	龍谷大学	34
京市立芸術大学	2	京都産業大学	18
奈良教育大	1	近畿大学	136
鳥取環境大	1	武庫川女子大学	34
県立広島大	1	追手門学院大学	10
		大阪経済大学	22
		関西外国語大学	19
		大阪工業大学	15

教職員人事異動

(平成二十四年度)

全日制課程

退職

鶴田	洋子	(国語)
松井	常喜	(数 学 (千里青雲高校へ))
今村	武廣	(数 学 (茨木西高校へ))
鶴川	晋	(理 科)
菅井	和由	(理 科)
河村	光子	(音楽)
山中	義範	(英語)
吉田	淳	(事務)

転任

米田	隆	(教 頭 (桃谷高校へ))
松村	尚子	(国語 (高槻北高校へ))
上田	洋也	(保健体育 (箕面東高校へ))
高柳	義人	(事務部長 (成城高校へ))
渡辺	均	(事務 (府外郭団体へ))

着任

坂口	茂	(教 頭 (能勢高校より))
吉田	英司	(国語 (西淀川高校より))
吉田	薫	(国語 (槻の木高校より))
新山	由季	(国語 (新採用))
浅沼	佳典	(社会 (本校非常勤より))
Yee	美絵	(数 学 (本校非常勤より))
栗野	達也	(数 学 (新採用))
坂本	辰典	(数 学 (産休代替))
西口	亜有葉	(理 科 (新採用))
増田	伸	(理 科 (箕面高校より))
當麻	樹杏	(音楽 (吹田東高校より))
宮脇	稔智	(保健体育 (三島高校より))
佐々木	敏行	(保健体育 (本校定時制より))
玉木	登	(保健体育 (千里高校より))
唐澤	広幸	(英語 (高等学校課より))
木下	史絵	(養護助教諭 (新採用))
仲辻	昌造	(事務部長 (刀根山高校より))
竹邊	成基	(事務 (北千里高校より))

定時制

退職

中山ゆかり (社会)

西川 裕 (数 学 (本校非常勤へ))

転任

佐々木敏行 (保健体育 (本校全日制へ))

池野 昌弘 (保健体育 (千里高校へ))

大牧 宏一 (情 報 (東洋学園へ))

着任

上野 翔大 (数 学 (新採用))

天満康次郎 (保健体育 (新採用))

和泉谷行男 (数 学 (池田北高校より))

亘 敏治 (数 学 (西野田工科高校より))

小原 和美 (国語 (成城高校より))

松島 正善 (社会 (福泉高校より))

水田 一気 (保健体育 (大正高校より))

渡邊 国和 (情 報 (新採用))

母校クラブだより

陸上競技部

部長 岩本 稜平

僕たち桜塚陸上競技部は、現在顧問の山上先生を筆頭に短距離24人、長距離8人、マネージャー6人の計39人で元氣よく活動しています。部内の雰囲気は先輩・後輩の隔たりが無く、みんな仲良く一人ひとりが皆のことを考え行動し、一つのチームとして活動しています。

このように仲の良い僕達ですが、練習が始まればみんな真剣になり、お互いをライバルとして切磋琢磨しています。この成果が実り、実力が高まって去年の夏には4×100mリレーで近畿大会に出場することが出来ました。これからもより上を目指して頑張って

いきたいと思っています。

バドミントン部

顧問 田中 淑

現在、2年生20名、1年生7名、計27名が活動しています。平日、体育館が使える日が週2日、2面しか使えない中で、未経験者が経験者以上の人数入部してきたため、練習も今までのような内容を維持することができなくて頭を痛めているのが現状です。生徒たちが仲良くやっているのはいいのですが、経験者も含め技術面・体力面・精神面で向上心の乏しい仲良しサークルになってしまっていて、クラブ全体の力量が低下したと思います。次年度は運動部としての原点に立ち帰ってみる必要があると思っています。

演劇部

部長 北西 豊

2011年度3月現在、男子4名、女子5名の総勢9名で日々活動させて頂いております。今年度は文化祭、コンクールだけでなく、北摂フェスティバルにも参加させていただきました、充実した毎日を送らせて頂きました。

現在は目前の、新入生歓迎公演に力を入れつつ、精進しております。65期生は全員進学となり忙しくなるので、今のうちに後輩達に一つでも多くの事を伝えられるようにしたいです。

ソフトテニス部

部長 林 花南

現在、1年生16人、2年生6人の計22人で活動しています。私たちの目標である中央大会出場に向けて日々練習に取り組んでいます。その結果、秋季団体戦で中央大会出場、また松田杯では優勝することができました。

これからも、目標を高く持ち部員全員で頑張っていきます。

ダンス部

副部长 森脇 愛里紗

桜塚ダンス部は、1年生32人、2年生6人で活動しています。おもな活動場所は、下足室前で、雨の日には、尚和会館を借りたり、小体育館を借りています。2011年度は全国的な大会から地域の人達とのふれあい活動まで幅広く活動させていただきました。

色々な活動をする中で特に私達が心掛けている事は、あいさつをする事です。幅広く活動させてもらう上で大切な事は、あいさつをする事だと思っで、新しく入ってくる1年生にもしっかりとそれを伝えられる部活になりましたと思っています。

今後もっと色々な活動をしたいと思いますので応援よろしくお願いします。

水泳部

マネージャー 平山 加奈子

私たち水泳部は、昨年20名の新入部員を加え、34名でシーズンを迎えました。6月に行われた中央大会で64期の先輩方が引退され、65期、66期だけの水泳部となりました。

20名の後輩を65期6名でまとめるということは、決して容易なことではありませんが、引退された64期の先輩方、OB・OGさん達のサポートもあり、私たちも成長することができたシーズンでした。みんなで励まし合い、今年の厳しい冬の練習にも耐え、再びシーズンが始まります。

今年の夏や冬の練習を糧に今シーズンも悔いのないよう、1人1人の目標や記録に向かって選手・マネージャー共々よりいっそう努力していきたいと思っています。

桜塚高校硬式野球部

マネージャー 松田 沙稀

現在は2年生24人、1年生15人、マネージャー3人の計42人で活動しています。3年生が引退し、新チームとなつて初めての公式戦なつた秋季大会では、大阪ベスト8という結果を残すことが出来ました。この結果に満足する事なく、選手一人一人が自分には何が足りなくて、何をすればいいのか考え、毎日少ない練習時間を少しでも効率よく使えるよう、努力しています。

一度しかない高校野球、支えてくれる方への感謝を忘れずに、これからも

頑張っていきたいと思います。

男子ハンドボール同好会

マネージャー 宮内 芽衣

男子ハンドボール同好会は64期が結成し、同好会という名で活動しています。他の部活や先生方の協力を得て、2年生8人、1年生15人、マネージャー4人で、日々練習に励んでいます。

まだ3年という歴史の浅い部ですが、64期が残してくれたクラブを次世代に繋いでいき、公式試合で結果を残せるように努力していこうと思います。

女子ハンドボール部

部長 花本 明莉

現在2年16人、1年7人、マネージャー12人の計25人全員仲良く、毎日賑やかに活動しています。先輩方の代に比べ人数も増え、色々な練習が出来るようになりました。しかし、まだまだ未熟な部分が多く、公式戦では納得のいく成績が残せていません。

最近、練習試合を多く組んでもらっているのでチーム力が少し上がってきました。春の大会までに、苦しい状況になっても試合に勝てるようなチームにしていきたいと思います。

そして、これだけの人数が1チームに揃うことはなかなかないので仲間を大切にし、笑顔で引退できるように頑張ります。

男子バスケットボール部

マネージャー 小林 結花

私たち男子バスケットボール部は現在65期生が選手15人・マネージャー2人、66期生が選手11人・マネージャー2人の合計30人で活動しています。公式戦に向けて顧問の先生に練習試合を組んでもらったり団結力を高めるために年に1度合宿を行うなど、日々の練習も時間が短いながらも楽しみながら練習をしています。

今後も選手は実力の向上を目指し、マネージャーは選手のサポートとに勤め、みんなで力を合わせ頑張っていきたいと思っています。

男子バレーボール部

顧問 田中 聡

2012年2月現在、部員21名（マネージャー4名を含む）で活動しています。部員の大半は高校からバレーを始めた「初心者」で、しかも身長も決して高くもないのですが、自分たちができる「桜塚バレー」をめざして、日々練習に励んでいます。この1年間

は「1部リーグ」のチームの仲間入りをし、この前の部別リーグでは2勝1敗のブロック2位の好成績を残すこともでき、最近では周辺のチームからも、「個々の能力以上に桜塚のチームはなかなか手ごわい。」と言ってもらえる位になりました。

なかなか「強豪私立」の「壁」は厚

いですが、「名もない公立」の意地を見せてくれることを密かに期待しながら、応援しています。

女子バレーボール部

顧問 平澤 泰樹

会計 川畑 利沙

女子バレーボール部は、部員数が3人と少ないですが、楽しく練習しています。練習はほぼ毎日で、土日もちやんと練習しています。合同練習や練習試合もしています。

とにかく部員同士とても仲が良いです。練習も向上心をもって真面目に取り組んでいます。最近、桜塚高校の先生だけでなく、他校の先生からも『応援しています。これからも頑張ってください！』と声を掛けて下さります。

そんな女子バレーボール部には是非遊びに来てください。

軽音楽部

顧問 久谷 秀明

昨年度は軽音楽部連盟主催ライブ、本校・他校の部内ライブ、地域のイベントなど、昨年度は計40回ほどのライブを行いました。とりわけ、NHK番組への出演、豊中まつりのバンド部門

に高校生で唯一の出演、地元商店街の応援ソングCDの制作など、活発な活動ができました。今年度は、昨年行った地域の方々との交流をさらに深め

られるような活動を中心に行っていく予定です。

箏曲部

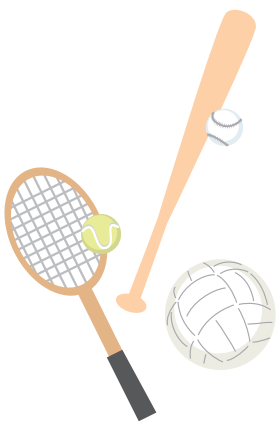
部長 森 美菜

現在は、3人で活動しています。昨年は発表の場がとて広がり、9月の桜塚小学校の敬老の集い、11月の中央公民館、旧羽室家住宅での演奏と、とても大忙しで、例年に比べ、とても活動的になりました。また、芸文祭の合同演奏にも出演させていただきました、ますます、お箏の腕を磨いています。部員が3年生しかないのです、1人でも多く新入部員が入ることを願っています。

文芸同好会

副会長 岡田 衛明

この文芸同好会は、今年になってできた新しい部活動です。まだ今年の文化祭で文芸誌を発行した程度しか活動していませんし、そもそも部として認められておらず同好会として活動していますが、これからより積極的に文芸誌の発行を行い、部員を増やし、正式に部活動として認められるように頑張っていこうと思います。



投稿記事

「百歳を越えた山岳部OB会」

高17期 関野 直木（東京在住）

我がOB会は今年の2月11日の集りで106回と回を重ねました。昭和42年に当時引退されていた後藤敬直先生（山岳部顧問）を中心に近郊の山歩きや先生宅に集まって山談議に酒を酌み交わし旧交を温める事を目的に発足致しました。年3、4回のペースで開催し、一昨年桜舞う大阪・桜宮公園で第100回を達成いたしました。メンバーは内田彰先生、相澤昂先生、牧末男先生など当時の顧問の先生方を筆頭に3期生の高谷先輩から始まり、28期の市田君まで47人が名簿に名前を連ねております。昨年暮れの忘年会には、初めて顔を出してくれた18期、19期の2人が加わり大いに盛り上がりました（2月11日の第106回の集まりには、また22期の1人が新たに加わりました）。このOB会の良さは酔いが回るにつれ、最初のうちは〇〇さん（注…OB回では、先輩・後輩の関係なく全員「〇〇さん」と呼び合っています）と呼ばび交していたものが、いつの間にか高校時代に逆戻りして完全に当時の先輩後輩の関係にもどってしまったことです。やはり同じ釜の飯を食った仲間というのは、時間が経過しても、身体の中にしみついた何かが我々



平成23年 4 月29日 103回 摩耶山

を当時の世界に引き戻してくれるのだなーと感心する次第です。また先日は昭和54年発行の「部報創立三十周年号」のリメイク版が全員に配られました。当時の部活報告や諸先生、諸先輩方の色々な思い出話など掲載されており懐しく当時を振り返りました。編集に当たられた当時顧問の佐藤彊先生（故人）は『現在校舎が建て替え中で部室も無く肩身が狭い』と記しておられます。楽しい集いも閉会近くとなると名残り惜しく、次回の開催日を決めて解散となる訳ですが皆の年齢を考えるとこの後数十回は続けられると思います。さて少し話題が変わりますが、長野県から新潟県に入ったところ、白馬岳北麓に蓮華温泉という秘湯があります。11月から翌年6月迄は雪の為、バ

ス道が閉鎖されており、その期間にそこへ行くのには長野県の梅池高原スキー場からスキーを担ぐか、スキーにシールをつけるか今、流行のスノーシューズで天狗原まで登り、そこからスキーで山間を時間をかけて滑り降りやつと辿り着くという『天空』の温泉です。この温泉に当時77歳の後藤先生が我がOB高谷先輩のサポートで到達されエイジレコーダーとなって温泉の食堂に写真が飾られています。一昨年、高谷先輩も77歳を迎えられこの快挙に挑戦し無事達成することが出来ました。しかし食堂の後藤先生の写真の横に78歳で達成された神戸の人の写真が飾られていました。これには先輩ガツクリで『自分の体力を考えると『もうよーやらんわー』と一時は諦めたのですが、心機一転79歳のエイジレコードに今年の4月に再挑戦することになりました。我々山岳部OB会は会を挙げて強力なサポート隊を編成し（ドクター含む、但し獣医）この快挙を達成することを今年の目標とし、桜塚高校山岳部の榮譽に一頁加えたいと思っております。この記事が読まれている頃は「祝い酒」か「口惜し酒」のどちらかになっていると思います。山岳部OB会に祝福あれ!!

ここ数年、OB会が開催されるごとに東京から大阪へ馳せ参じる理由は前述のとおりですが、それらを包みこむ精神風土的なものは何か？とさがした

ところ、『なぜ山に登るのか』の質問に『そこに山が在るからだ』と答えたマロニーに倣って、『そこにOB会が在るからだ』と結論づけました。

※後註…このOB会にメンバーの女性がご主人（桜塚OBではない）を誘って参加していただいております。そこにOB会のよさの秘密があるようです。

おめでとうござます
中西昭次氏84才
（昭和26年6月〜昭和52年3月英語教諭として桜塚高在職）
春の叙勲（平成23年6月18日）で瑞宝小授章を受章されました。

「カナダからの便り」
高32期 直子ウィリアムス（旧姓松村）

世界最古の書物である聖書の中に、現在人類が経験している様々な災厄を的確に預言した次のような聖句があります。『国民は国民に、王国は王国に敵対して立ち上がり、またそこからここへと食料不足や地震があるからです』（マタイ書24章7節より）2011年3月11日に日本を襲った津波、福島原発事故の映像を、私達もここカナダから悲痛な思いで観ていました。

私達家族は、カナダの西部に浮かぶバンクーバー島にある、人口8万人位の町に住んでいます。開発が進んでき

ているものの、未だ自然がかなり残っています。住宅街に鹿が闊歩し、鶉の群れが列をなして行き来し、アライグマが家のゴミ箱を荒らしにくる姿がみられます。空には白頭鷲が飛び、子供が小学校から、近所でクーガー（ピューマともいわれる大型の猫科の動物）を見かけた人がいるので気をつけるように」との連絡事項をもらっています。

桜塚を卒業して数年でカナダに移り住み、それ以来30年近くこの国に住んでいます。桜塚時代は若い時の、いつも笑ってクラブ活動に夢中になっていた楽しい日々として、今も懐かしく思い出します。授業をクラブ仲間とサボって、十三にうどんを食べに電車に乗るところを体育の先生にみつかつて、翌日校長室に呼ばれた事も、今となっては笑って話せる良い思い出です。

2010年の秋に昔のクラブの仲間何人かと再会し、ほぼ30年ぶりに彼女達と私の主人や息子も一緒に、桜塚高校の校舎内を歩く機会に恵まれました。多分改装されたところや忘れていた部分、高校当時には気づかずに過ごしていたところなど様々で、あの時毎日通っていた校舎がこんな風だったのかと新鮮な思いで歩きました。

日本からこちらに帰ってきて数ヶ月で震災がありました。あの大変な時でさえ、冷静で、協調性があり、辛抱強くお互いに助け合って対応していた



2010年の秋 クラブ仲間と桜塚高校を訪れた日（岡町駅にて）
（後列左より）私、岡田さん、主人（ダグ）、松田さん、西岡さん、塚さん
（前列右より）立石さん、笹野さん、息子（ジェシー）

日本人の国民性を高く評価する声をこちらでもしばしば耳にしました。しかしあの時を境に、多くの人々の生活が変わってしまいました。

冒頭で引用した聖書は、対処しにくい危機の時代に生きている私達の将来が一変されて、全く良いものになる事を約束しています。

『また（神）は彼らの目からすべての涙をぬぐい去ってください、もはや死はなく、嘆きも叫びも、苦痛ももはやない。以前のものは過ぎ去ったのである』（啓示の書21章4節より）

今回被災された方、愛する人を亡くした方、また現在も辛苦を経験している方、これから困難に直面していかれる方々が将来に希望を持って生活されていかれる事を願ってやみません。

（直子ウィリアムスさんと同期の立

石千鶴さんから。

冠省

先日はご丁寧な報告のお葉書、ありがとうございます。また、写真資料などあれば、添付していただけるとありがたいです。よろしく願います。』

直子さんは学生時代から「将来カナダに住む」と夢を語り、その言葉通り行動し、15年以上音信不通でした。3年前、私が個人で訪れたカナダ・バンクーバー空港で全く偶然に再会して連絡先を交換し、昨年にはカナダから一家で来日し、我家で二週間過ごしました。その折、桜塚高校を訪ね、中も見させていただきました。

今回、尚和会、大畠様のご尽力、お心遣いに感謝いたします。

お身体、ご自愛下さいませ。匆々)

母校初代女性理科教師

会長 大畠 光昭

去る三月十三日に次の様な内容のメールが尚和会山澤副会長宛に届きました。

『私は、小河直孝（おがわ なおたか）と申します。突然の連絡お許しください。

母が97才で、現在病床で、あぶない状態にあります。

現在、母の略歴をまとめていますがわからない部分があり困っています。

母は1938年頃に、教員として豊

中高等女学校で働いていたと言っていました。名前は北村敏子です。もし、確認できましたら情報を教えて下さい。また、写真資料などあれば、添付していただけるとありがたいです。よろしく願います。』

早速山澤副会長が「名簿で確認できました」と返信すると三月十五日に、次のメールが再度ありました。

『山澤健二様

早速のお返事と温かい対応ありがとうございます。

母ですが、新設の豊中高女の教員として2年目から勤め始めたような話を聞きました。教えていた教科は理科・数学で、在職期間は2〜3年ではないかと思っています。

体をこわして退職しました。

同僚で仲の良かった先生に藪内さんという方がいたようです。

母は、昭和19年に結婚して満州に転居し、そこで終戦を迎え、着の身着のまま最後の引き上げ船氷川丸で昭和21年に帰国してきました。

そのため、当時の記録や写真が全くありません。もし、母や藪内さんについての記録があれば教えてください。また、写真があれば送っていただければありがたいです。

高女一期生〜三期生あたりの方なら、何か情報をお持ちではないかとおもいます。どうぞよろしくお願いします。』

山澤副会長よりこのメールを二十七日に受け、何とか小河氏の依頼に応じたいと考え、その夜東京のご自宅へお電話すると奥様が電話口に出られ、ご主人は外出中とのこと。そこで電話の主旨を話すと「今日義母は亡くなりました。主人はそれで斎場へ打ち合わせに出かけているんです」

残念な奥様のお言葉を聞き、思わずもう少し我々の対応が早ければと悔やまれてなりませんでした。

桜塚高校は昭和十二年一月二十二日、大阪市東成区に「大阪府立第十四高等女学校」を設置。三月三十一日に大阪府立生野高等女学校内に仮校舎を設

けて開校し、豊中の現在地に移ったのが翌昭和十三年のことです。

北村敏子先生が桜塚高校に理科教師として赴任されたのが、昭和十三年三月

ですから「大阪府立豊中高等女学校」と改称した最初の教員の一人で、昭和十七

年三月までの四年間母校の教壇に立たれました。

早速翌二十八日に母校の資料室に向

き、創立以来保存されている卒業アルバムの中から、セピア色に変色した70年前の高女五期生の入学式のクラス別（当時はい組からへ組の六クラス）写真アルバムを発見、やっと北村先生の名前を見つけることが出来ました。

急いでカラーコピーし、開校当時の

貴重な写真等が掲載されている創立五十周年記念誌や、最近の会報と共に宅配便でお送りしました。ご霊前にきつとお供えになられたことでしょうか。早ければひと目病床の北村先生にもご覧

いただけたのに……。

先生が着のみのまま満州から引

き揚げて来られたことを考えると、恐らく、先生の独身時代のお姿を、ご子息様他の方々はご存知なかったと思うと、あのアルバムのお母様のお写真は貴重なものとして残されると思っております。

尚和会ホームページから、今回のようなメールをいただき、恩師のご家族の方ともひとつの絆が生まれたことを嬉しく思います。

北村敏子先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

合掌

大阪府立豊中高等女学校			
第一學年 組			
牛野目し子	土生和子	六島郁子	尾崎修子
佐藤雅子	杉原道子	小山美代子	吉田妙子
門山京子	北尾久子	井筒 徳	小田陽子
中島淑子	奥田多美子	三杉瑞枝	本莊幸子
藤田弘子	川崎美子	北村良子	加賀康子
廣瀬美子	稲井美子	豊原加子	川井泰江
今井悦子	池川カオル	中西康子	柳本節子
齊藤典子	前西祥子	岩城長子	谷本京子
沼田真智子	牧野純子	高橋淑子	鈴木悠子
森藤ヒロ	松尾香子	横山道子	奥村敏子
昭和十六年四月撮影			
望月 光雅 寫真館			
大阪府南區上本町二丁目角			
電話 東五八八番			



前列左より4人目が北村敏子先生

高女5期生入学式（昭和16年4月）

尚和会通信

一、尚和会会報有料制について

今、お読みの尚和会会報は有料制です。年間千円（同封の振込用紙にてお振込み下さい）払込用紙紛失の方は郵便口座番号00930331860加入者名「尚和会」宛お願いします。会報發送者…会報千円及び協力納入者に限り翌年発行の会報を送付いたします。

二、尚和会会報の無料配布

その期が、卒業後五年経過ごとに、住所判明者を対象として全員に送付します。また、卒業後五年間は全員に送付します。

三、「同期会開催支援助成金制度」

・助成金交付対象期

尚和会会員が同期会を計画、開催実施しようとするもので、その同期会が卒業後5年を経過した年及びその後5周年単位毎の年の四月一日から翌年三月三十一日までの年度内に開催される期であること。なお、卒業後最初の同期会は右記の周年でなくても助成金を交付する。

・助成金の額

五〇、〇〇〇円とする。

・申請の手続き

開催する同期会の代表幹事が書面（同期会助成金交付申請書）にて、尚和会会長宛に同期会開催一ヶ月前迄に提出又は郵送する。（申請書用紙は会長宛請求のこと）

・助成金の交付

「同期会助成金交付申請書」受理後

速やかに同期会開催迄に支払う。

なお、同期会に対する助成は同じ期が同じ周年時期に複数の場所で開催されても、尚和会からの助成金交付は、その期に対して一回限りです。また、クラス単位での開催も対象外です。

四、在校生クラブ活動に報奨金制度

クラブ活動に顕著な成績を残したクラブに、活動費の一部を助成する制度です。助成対象は府下大会及び近畿大会にて優勝またはそれに準ずるもの、又は全国大会出場の場合とします。在校生諸君の活発な活動を期待します。

今年「同期会開催支援助成金」を受ける事の出来る期

高女1	高4	高9	高14	高19	高24	高29	高34
高39	高44	高49	高54	高59	高64	定7	定12
定27	定32	定37	定42	定47	定52	定57	定62

「同窓会開催支援助成金」は、
1.卒業後初めて開催する同期会に交付します
2.卒業後5周年以降に5年毎に開催する同期会に交付します(上記の期が対象です)
例)卒業後8年目に初めて同期会を開催し助成金を受け取りましたが
続けて卒業後10周年にも開催することになりました……
この場合も助成金は受け取れますから申請して下さい。

各 期 連 絡 先

期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話	期	氏 名	電 話
女1	越 水 ユ リ	06-6852-8755	高26	松 田 俊 一	06-6841-1049	高60	林 知 徳	06-6850-8985	定39	森 本 真裕美	06-6849-7859
女2	北 川 富美子	0798-74-3024	高27	高 森 豊 文	06-6832-5238	高61	桐 山 直 也	06-6853-9781	定41	奥 田 康 弘	06-6388-7339
女3	菅 野 万喜恵	06-6852-0020	高28	乾 憲 隆	0797-74-4331	高62	春 口 健 太	06-6857-9029	定42	前 川 良 司	072-722-5896
女4	永 井 徳 子	06-6942-1968	高29	山 澤 健 二	06-6399-7677	高63	中 司 将 太	06-6853-3804	定43	山 田 辰 典	06-6333-1785
女5	加 藤 恵 美	06-6872-6248	高30	木 村 慶 子	06-6853-9213	高64	太 田 将 司		定44	大 塚 俊 二	072-762-7873
女6	青 木 操 子	06-6843-2552	高31	佐 藤 稚加子	0797-87-8357	定1	吉 本 喜代子	072-722-2075	定45	青 木 宏	06-6332-5370
女7	黒 田 長 子	06-6854-5432	高32	塩 崎 正 和		定3	永 井 博 純	072-759-2971	定46	岡 田 智 寛	06-6333-5996
女8	中 村 陽 子	06-6844-1570	高33	菊 川 雅 之	06-6301-0805	定6	中 川 豊	06-6349-8965	定48	野 口 光 弘	
高1	安 達 良 子	072-721-3901	高34	中 谷 和 宏	06-6864-3181	定7	岸 本 弘	072-734-1237	定49	大 鳥 正 登	072-761-1036
高2	北 野 敦 子	0797-88-2676	高35	川 嶋 道 代	072-729-6099	定8	田 邊 昭 夫	06-6843-0952	定50	福 永 敦 哉	06-6862-7542
高3	谷 田 探 成	06-6314-0550	高36	安 藤 昌 博	06-6832-7930	定9	中 本 賢 一	06-6854-2078	定51	徳 留 三 香	06-6866-6994
高4	中 右 吉 信	06-6855-5372	高37	高 崎 健 治	06-6623-6801	定11	永 井 敏 輝	06-6852-0333	定52	本 郷 美由紀	06-6841-0860
高5	宮 口 一 郎	06-6852-4859	高39	須 崎 康 広	072-752-6441	定12	笹 部 修 造	06-6852-0475	定53	山 下 武 徳	06-6857-3239
高6	北 まち子	06-6865-3131	高40	堂 前 直 子	06-6336-7265	定13	小 畑 貞 夫	06-6848-3019	定54	井 上 かおり	06-6862-8978
高7	関 高 明	0797-88-5603	高41	朱 山 雅 枝	06-6864-4782	定14	杉 本 土 生	072-728-1497	定55	高 橋 秀 彰	06-6852-4438
高8	岩 本 鈞	06-6852-8739	高42	谷 尾 紀 江	048-946-3601	定16	森 島 作 蔵	06-6857-6219	定56	越 智 康 裕	06-6868-2275
高9	安 浦 杲	072-737-0068	高43	横 尾 さち子	06-6854-0026	定17	前 田 政 治	06-6855-8451	定57	石 村 真 実	080-3113-0635
高10	唐 渡 吉 則	072-752-4548	高44	河 野 太	06-6476-1102	定18	中 島 健 二	072-722-8153	定58	上 山 良 太	072-751-1035
高11	吉 田 和 久	06-6857-0352	高45	出 井 健一郎		定19	飯 田 悦 弘	06-6855-3440	定59	奥 田 一 樹	090-6974-6331
高12	斎 藤 嘉 明	072-738-4647	高46	榎 本 誉 士	090-4795-4221	定21	堀 健 次	06-6878-5694	定60	吉 岡 雄 基	06-6866-3668
高13	細 川 和 彦	06-6849-6879	高47	藤 本 真 史	06-6854-4908	定22	西 田 惣 一		定61	岩 本 麻由美	090-2358-5296
高14	佐 藤 勝 哉	06-6849-0663	高48	中 山 耕 平	06-6473-5212	定23	豊 隆 司	06-6335-7169	修1	矢 野 和 美	
高15	大 畠 光 昭	06-6841-8135	高49	岡 本 真 一	06-6331-2559	定25	大 町 裕 次	06-6862-7083	修2	能 勢 優 紀	06-6841-2919
高16	中 務 公 子	06-6858-4509	高50	北 敬 史	06-6843-0173	定27	稲 井 幸 雄	072-728-0955	修3	畠 山 貴 徳	072-728-1150
高17	福 本 育 馬	06-6333-6636	高51	西 脇 巧	06-6845-9616	定28	真 下 保	06-6385-6190	修4	竹 田 大 河	06-6841-4820
高18	北 川 悟 司	06-6843-1336	高52	内木場 昇	06-6848-6297	定29	寒 川 悟		修5	三 島 祐 貴	072-722-7482
高19	志 賀 順 子	06-6852-0968	高53	宮 崎 沙也香	06-6831-7395	定30	奥 みゆき	072-882-4130	修6	野 口 雄 樹	06-6843-7595
高20	郡 守 男	079-565-2627	高54	渡 辺 剛	06-6855-3018	定31	木 原 純	072-730-6756	修7	田 中 一	06-6833-6671
高21	山 本 登志恵	06-6924-3544	高55	真 野 康 祐	072-739-1917	定32	市 村 孝 浩	06-6841-0416	修8	足 立 亘	06-6855-3538
高22	杉 山 茂	06-6841-4119	高56	亀 井 み え	06-6393-1017	定34	清 水 美 佳	072-761-3323	修9	宮 谷 友 浩	072-752-1244
高23	後 藤 保 二	06-6373-7380	高57	柴 田 綾	06-6302-7216	定35	武 藤 直 美	06-6843-5357	修10	高 安 邦 子	06-6301-0968
高24	梅 田 純 子	06-6329-6309	高58	北 山 耕 平	06-6866-3878	定37	渡 部 二 郎		修11	上 芝グリーンカ	06-6864-3898
高25	小 合 孝 子	06-6855-3604	高59	井 上 裕 太	06-6841-5447	定38	中 村 保				

尚和会 平成23年度決算報告書・24年度予算						
[収支決算] (自：平成23年4月1日至：平成24年3月31日) (単位：円)						
科 目		予 算	決 算	差引過不足	備 考	24年度予算
収入の部	入 会 金	1,376,000	1,376,000	0	23年3月卒業344名（全日310名、定時28名、定通併修6名）	1,384,000
	会 報 代	1,800,000	1,801,000	1,000	1801人	1,800,000
	尚 和 会 協 力 金	2,600,000	2,730,855	130,855	1262件	2,600,000
	広 告 収 入	80,000	90,000	10,000	4件	100,000
	利 息 収 入	30,000	10,684	▲ 19,316		10,000
	雑 収 入	10,000	1,000	▲ 9,000	記念誌代（1冊）	0
	計	5,896,000	6,009,539	113,539		5,894,000
支出の部	事 務 費	200,000	129,848	70,152	事務用品、ハガキ等印刷代、会員名簿管理費	200,000
	備 品 ・ 雑 品 代	50,000	83,790	▲ 33,790	コピー機リース料等	150,000
	通 信 ・ 交 通 費	300,000	134,380	165,620	ハガキ、切手、郵送費	300,000
	会 合 費	400,000	467,557	▲ 67,557	理事会・評議員会及び各委員会会合費	500,000
	会 報 発 行 費	2,400,000	2,293,309	106,691	20頁 11000部印刷 8364部郵送	2,400,000
	総 会 費	700,000	725,626	▲ 25,626	総会・懇親会（参加者87名）	700,000
	東京支部援助金	150,000	150,000	0		200,000
	同期会開催助成金	500,000	250,000	250,000	高女6.高3.8.28.33期	500,000
	慶 弔 費	30,000	0	30,000		30,000
	卒業生記念品代	150,000	150,000	0	卒業証書入れ（バインダー付）	150,000
	現役クラブ報奨金	100,000	210,000	▲ 110,000	定時制陸上、バレー、バトミントン部、全日制陸上、ダンス部	200,000
	高校援助協力費	350,000	1,173,000	▲ 823,000	トレーニングマシン費333,000円、職員室OA工事費84万円	3,500,000
	ホームページ運営費	100,000	89,250	10,750	初期導入レンタルサーバー費	100,000
	雑 支 出	300,000	254,300	45,700	振込手数料、写真代他（郵便振替手数料192,450円）	300,000
	予 備 費	1,500,000	1,315,000	185,000	東日本大震災義援金100万円、トイレ工事費315,000円	500,000
	計	7,230,000	7,426,060	▲ 196,060		9,730,000
	1.差引当期収支	▲ 1,334,000	▲ 1,416,521	▲ 82,521		▲ 3,836,000
	2.前期繰越金	582,986	582,986			166,465
	3. (1+2) 合計	▲ 751,014	▲ 833,535			▲ 3,669,535
	4.尚和会積立金等繰入					
	5.尚和会積立金等取崩		1,000,000			
	6.次期繰越金		166,465			

[貸借対照表] (平成24年3月31日現在) (単位：円)			
借 方		貸 方	
現 金	104,265	預 り 金	0
郵便振替口座	41,656	尚 和 会 積 立 金	15,000,000
通常郵便貯金	0	尚和会事業積立金	11,000,000
普 通 預 金	1,070,434	次 期 繰 越 金	166,465
定 期 預 金	15,652,110		
定 額 貯 金	9,298,000		
合 計	26,166,465	合 計	26,166,465

以上、決算報告いたします。 決算に対し監査の結果、誤りの無いことを報告します。

平成 24年 3月 31日 平成 24年 3月 31日

財務担当副会長（定8期） 田邊 昭夫 印 会計監査（定13期） 中岸 澄江 印

会 計（高29期） 旭 直子 印 会計監査（高31期） 佐藤稚加子 印

会 計（高29期） 小林 佳代 印

平成24年度 評議員会及び理事会予定表			
評議員会		理事会	
第一回 平成24年 9月 8日(土)		第一回 平成24年 5月12日(土)	尚和会会議室
会費制 会場未定		第二回 平成24年 9月 8日(土)	
		会費制 会場未定	
第二回 平成25年 1月13日(日) 新年評議員会		第三回 平成24年11月10日(土) 尚和会会議室	
会費制 会場未定		第四回 平成25年 1月13日(日) 新年理事会	
		会費制 会場未定	
第三回 平成25年 3月23日(土) 尚和会会議室		第五回 平成25年 3月23日(土) 尚和会会議室	

尚和会新役員（平成24・25年度）



副会長
高19期
大岩 正明
(新任)



副会長
(行事担当)
高15期
南 正枝
(新任)



副会長
(財務担当)
定13期
中岸 澄江
(留任)



会長
高15期
大島 光昭
(留任)



会計
高30期
中村 三枝
(新任)



会計
高29期
旭 直子
(留任)



副会長
(広報担当)
高37期
高崎 健治
(留任)



副会長
(総務担当)
高29期
山澤 健二
(留任)



支部長
高14期
北村 正和



東京支部



会計監査
高31期
佐藤稚加子
(留任)



会計監査
定13期
塚本五十鈴
(新任)

辞任

- ・副会長 田邊昭夫(定8財務担当) 吉田和久(高11総務担当) 上田幸子(高15行事担当)
- ・会 計 小林佳代(高29)

卒業生で母校の
在校生HRで講師になって
いただけませんか。

昨今のグローバル化が進展している世界の中で活躍していく上で、「多文化社会に生きるリジョナルリーダーの育成」を目的として、2012年11月頃に2年生（高66期）のHRの時間をつかって、海外での現場経験をお持ちのOBの方々のリアルなお話を講師として話していただきたいのです。業種、職種等は問いません。



連絡先
桜塚高校 校内理事 桑田 誠（高35期）

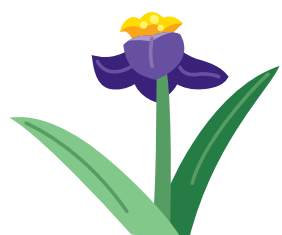
同期会報告

豊女一期まだまだ咲く会
その一

二十三年四月三日
ホテルアイボリー
二十五名出席 面白く・楽しかった。



その二
二十三年十一月二十日
ホテルアイボリー
二十六名出席 楽しく・面白かった。



豊中高女六期生
二十七回最終記念同窓会

日時 平成二十三年十月二十八日
場所 ヒルトン大阪「真珠の間」
前回傘寿記念同窓会より二年半経ち
ました。今回を持ちまして終りにした
く最終の同窓会を開催いたしました。

出席申込五十六名全員出席、始めて出
席の方二名、何よりも嬉しいのは井上
まさ先生がお嬢様の純子様の介添でご
出席、前回は車椅子だったのが今回は
手押車を押して歩いて……前向きに生
きられる姿に一同感激、先生に気をい
ただいたと思います。先生のプレゼン
ト、心のこもったお手紙「同窓会は一
つの区切りを迎えますが皆さんの素敵
なつながりに区切りはありません。」
そして綺麗なハンカチとお手製のカレ



ンダーは母校の正門前の校舎、校庭の
桜、佇む先生、文化財認定の塀等の写
真入りでした。式は人数、時間の関係
もありマイクで名前だけとお願いした
が、やはり最後となると熱がこもり、
あっと云ふ間に時間経過した八十八才
に集まりましょうの声が、みんな元気
だし、目標あれば実現出来るかも……四
年先……。

最後に「仰げば尊し」「蛍の光」の
テープを流し共に歌いました。
阿波田絹子さんからは今回は全員に
お手製の「鍋つかみ」をいただきました。
好評でした。いつもお気遣いをい
ただきました。いつも遠方を新幹線で
参加していただき今回は十名の方、長
年有難うございました。最後に出席さ
れてた吉村久子様（旧姓堀田）が十一
月五日に急逝の訃報を受けました。
受付してた私に、始めて出席の江見
さんと一緒に挨拶に見えた時の笑顔が
心にとまりました。ご冥福をお祈りい

たします。
尚和会よりの五万円有難うございま
した。
有効に使わせていただきました。厚
く御礼申し上げます。

卒業六十年兼傘寿会
高三期会

谷田 探成

平成二十三年十月十四日、我々高三
期生は幸にも表記の六十周年と合せて
傘寿を祝って、大阪ヒルトンホテル
に、同期生八十一名が集うこととなり
ました。男性三十一名女性五十名の出
席は二年前よりは約二割減で残念でし
たが出席者の男性の中には仲々健啖家
が多く久しぶりの友人との会合を喜ん
で、大いにメートルをあげている者も
ありました。関東からも約十名出席が



あり宴酣にて、男女のコーラスを最後
に幕を引きました。たゞ悔まれるのは
会場の都合で開会前に記念写真をとつ
たため、遅れて来た人々が写ってなく
て悪い事をしてしまったと、この紙面
を借りてお詫びします。

桜のシルエット

高四期 中島 昭典

「さくら花散り交い曇れ老いらくの
来むといふなる道まがふだに」
むかし男ありけりて語り出される伊
勢物語の主人公在原業平が藤原基経が
摂政となり四十才の参賀を迎えた言祝
として詠んだと云われる。「桜花よは
げしく散り舞ってあたり一面を曇らせ
てくれないか、老いの来るみちが分ら
なくなるように」当時の四十才の参賀
は今の還暦のようなものであろうか。
今や日本人の平均寿命は男79才、女86
才と云われるが短い時間に凝縮した人
生を送った人達に比べ長寿社会に生き
る我々に天は何を問いかけようとして
いるのだろうか。

さて私達高校四期は、関東は年三、
四回、関西は夏冬の二回集っている
が、昨年の冬は、十二月八日に宝塚ホ
テルで盛大に行われた。東京からも数
名の美女が参加してくれた。当日は民
謡日本一の翔田ひかりさんの歌と三味
線、太鼓「黒拍子」社中の熱演を堪能
させてもらった。畏友松田祝三君のい
つもながらの行き届いた企画に心から
御礼申し上げます。

十二月八日は70年前に太平洋戦争が
勃発し我々多感な時期を戦争、敗戦、
復興と目まぐるしく環境が変る中で過
ごす事となった。私は十二月八日の真
珠湾攻撃に参加した二人の人間淵田美
津雄、酒巻和男（敬称略）の生きざま



に想いをはせないわけにはいかない。
淵田（当時中佐）は私の故郷大和葛城の出身で、海兵52期の歴戦のつわものであり真珠湾攻撃に際し360機の攻撃隊の総隊長として空母赤城から飛び立った男である。しかし敗戦を迎え、真珠湾の英雄も亡国の敗者として白眼視された。不毛の心の旅の中で淵田は日本軍捕虜に対する或る看護婦の無償の献身談や米空軍捕虜の手記に触発され、聖書に親しむ事になり、やがてキリスト教に回心し伝道士としてアメリカ、ヨーロッパを歩くという数奇な運命をたどった。晩年は奈良橿原に居をかまえたが昭和51年73才で病死した。一方酒巻（元少尉）は真珠湾特攻の甲標的と呼ばれる特殊潜航艇に9人の仲間と乗り込み湾内に入ったが不幸にして艇は座礁、捕虜となった。仲間の9名は軍神として靖国に祀られたが酒巻の影は抹殺された。復員後戦友の家族を訪ねた。ある母親はふるえる手で彼の手を握りしめ私の息子もこうして逢いたかったと涙したと云われる。彼はその後トヨタ自動車に勤務しブラジルトヨタの社長になっている。

人のすすむ道はまちまちである。自分が選ぶ道もあり、選ばれる道もある。70年の歴史は長いようでもあり、そうでもないかも知れない。平和ボケをした日本国の現状を見て我々は徒に年を重ねるわけには行かない。貧者の一燈を献じつづけたと思う。3時間余にわたる宝塚ホテルの宴は終り有志は元気で二次会へ足を運んだ。
今年は卒業六十周年である。

温かさ、楽しさに包まれて

高校八期会 同窓会

世話人会 岩本 鈞

前日まで冷たく湿らせていた雨空もからりと霽れ、気温も上がった十一月十二日、卒業五十五周年記念八期生会は、豊中市のホテル アイボリーで六十名の参加を得、賑やかに開催されました。四組谷茂男君、五組北川美代子（福原）さんの名司会で、開会冒頭に亡き友を偲んで黙祷、続いて五組宮武健次郎君の開会挨拶。これがまた抜群の機知に富んだもの。

「古来、同窓会での語らいは三つに決まっている。①病気のこと ②孫のこと ③介護のこと そんなことより、今日は十分に来し方を語り、聞き、明日への活力にしよう。」と。そして遠く茨城県からお越しの三組氏家武君の音頭で乾杯、宴は幕を開けました。懐かしい思い出話、近況等々をしゃべりまくり、まさに宮武君の挨拶どおり、明日へ向かって気持ちを弾ませることができました。

その寸描。八組梶浦令子（村山）さんは、着いたテーブルの中で紅一点。もてるのには高校時代この方慣れているけれど、同窓会の席はまた格別と、天にも昇るウキウキの躰。その七組杉

本憲治君は、「長いこと逢うてへん人は、顔と名前が直ぐには一致せえへんなあ……」と呟いていましたが、しかしお互いに笑みを交わしながら話していると、十秒も経たぬ間に、竹馬の仲に戻るの流石。
一組のテーブルでは木谷晋司君や森田司郎君、角高安宏君らがゴルフの話に興じ、互いの武勇伝を交流。他の組のテーブルからも、同好の士が首を突っ込んで来ました。
私、一組岩本は六組中塚久恵（浜）さんとキリスト教研究部の思い出をちよつぷり。
八組高橋弥佐子（加藤）さんは、本当は「みさこ」さんなのに、高校時代のまま（実は中学時代から）「やさこ、やさこ」と呼ばれ、ご本人もその呼び名に親しまれておられるよう。
杉本君の言うように、確かにお名前の直ぐには浮かんでこない方がおられる中で、この五十五年間、少しも変わらないご容姿、ご麗顔の女性もおられます。お会いした途端に、「あ、○○さん」と直ぐに出てきます。長年月に互る体型維持管理の秘訣は？



中には、何と卒業以来初めてこの席へという方もおられました。二組中野尚美（石崎）さんと八組田村尚子（渡部）さんのお二人がその人。世話人の梶浦令子（村山）さんと二組岩藤雅子（中西）さんが、是非そのことをみんなに披露しようとされましたが、お二人とも、「そんなのヤメテ」。

手を握り、肩をたたき合った歓談も、あつと言う間に時が過ぎ、校歌を斉唱して散会となるどころ、おっと、その校歌斉唱を司会の谷茂男君が告げた時、突如前へ登場したのは九組井上健君。ステージでマイクの前に立ち、「いつも同窓会で歌う校歌に不満がある。」と言い出しました。何事かと聞いていると、「あの校歌の歌詞の中に、桜塚 ああ桜塚……という箇所があるが、その『ああ』という部分は、男声の歌うパートであり、女声にはない歌詞だ。なのに、いつも女声が歌っているのは間違いだ。」とのこと。ああそうだったのかとみんな納得。井上君のおっしゃるように歌って、パチパチパチ……と割れるような拍手。そして散会。

ところが、楽しかった余韻は、大方の人を一階の喫茶ラウンジに導きました。何と、その全席を私たち八期生で占めてしまったのです。こんなに大勢の方々の尽きせぬ語らいが巧まらずして生まれるなんて、みんな素晴らしい高校時代を過ごし、今も、懸命に生きておられるんだと、感激しました。皆さん、本当にありがとうございました。

（なお、文章中の八組田村尚子（渡部）さんは、この後、二〇一一年十二月二十六日、急逝されました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。）

古稀記念同期会

世話役代表 吉田 和久

母校桜塚高校を昭和三十四年（一九五九年）に卒業して五十二年になりました。

二〇一一年十一月十九日（土）秋の嵐が吹き荒れる生憎の天候の中で、五十三名の出席を得て楽しく開催しました。今回は中間期のため、尚和会からの助成金は出ませんでした。宴会経費の削減などに努力しました。遠くは九州や関東在住の同期生も駆けつけてくれました。

場所は「新大阪江坂東急イン」で交通の便も良く、集まった途端に学生時代にタイムスリップして、あちこちで賑やかに近況報告がなされていました。旧姓の名札を見て、話をする内に面影が浮かび、昔はポツチャリしていた人が、一廻り小さく上品になって、半世紀のブランクもあつたという間に「ドンちゃん」「アツちゃん」と、同期会ならではの感動を味わっていました。





した。
 次回は、卒業五十五周年記念になります。開催は、二〇一四年六月頃を予定しております。今回参加できなかった人には、声をかけて是非お元気な顔を見せて頂き、高校時代の懐かしい思い出やこれからの夢(?)などを語り合いませんか。楽しみにしております。

十二期生古希の集い
 その一
 一昨年卒業五十年を祝う同期会をした折、これまでのような五年おきの同窓会では寂しいと、親睦会を立ち上げ毎年何らかの催しをする事になった。

昨年から今年にかけ、私達は古希を迎えるに当り、古希を祝う会をホテルグランヴィアにて十月開催し、五十名が参加した。世話の発案でいつものような会ではない内容でこの企画がされた。一部で講演会、二部で会食の形式となった。講演は、アラホー眉目秀麗

な旅行家おくだかりさんに依頼し、「イスラムひとり旅」と題し、私達には知られざるイスラム文化や生活を語って貰った。又彼らの衣服やかぶり物のファッションの紹介がありモデルになったメンバーも貴重な経験を喜び興味の尽きない講演の内容となった。

二部の会食は、クラス毎の席は止めたランダムにし、初めて出会う人との談笑も盛り上がり、そこへサプライズがあった。くじ引きである。なんと何千万も当るサッカーくじも入っていて、それを引いた人は喚声を上げた。果たしてその結果の程は不明であるが、趣向あるプログラムに時間が早く流れ終りを迎えた。九十三歳の現役の画家堀文子さんは、七十三歳でイタリアはトスカナへ行き、創作をした。彼女に「群れない、慣れない、頼らない」という言葉を胸に、世話役の労に感謝し、再会を期し、散会した。

只一つ残念な事に、親睦会を立ち上げたI氏が倒れられ出席されなかったのだ。今は快方に向かつてられる由。一日も早い全快を祈念する次第だ。

その二
文科コース一・二組クラス会
 全体の親睦会に先立つ九月、中西昭次、二階堂洋両先生の出席を得て三十五名が、ホテルアイボリーに会した。

当初四月開催の予定が東日本震災のため日延べされた。ちよう度、中西昭次先生が叙勲されたこともあり、そのお祝いを兼ねた古希を祝う会となった。又、同級の山本正一さんも叙勲されたので、喜びも増す会となった。

和気あいあいとした会は、即高校時代に立ち帰り、青春の狭間にいるかのように、話は弾む。先生達も五十数年前の私達の授業の様子や御自身のニッ

クネームを思い出され、双方なつかしい思い出に浸った。本会が終了し、二次会となったカラオケ会場は、ほとんど全員の出席だった。プロそのけの人の多さに、一生をくぐりぬけてきた味と重さを感じた。そして、女性の歌唱力のある全員が、川の流れにを始めとし、美空ひばりの曲を熱唱。あ、私達の時代は美空ひばりと共にあったのだと痛感した。

三年後に開かれる合同クラス会に、健康で参加できることを目標に、まだまだ輝きを失うことなく歩み続けようと別れを惜しみ乍ら家路に着いた。

高校十三期 卒業五〇周年記念同窓会
 世話人一同 事務局 細川 和彦
 去る平成二十三年十一月八日(土)、ラマダホテル大阪に於いて卒業五〇周年記念同窓会を開催いたしました。

佐野方一先生、水田紀久先生、内田彰先生の出席を頂き、総勢百十二名の参加を得て賑やかに歓談の時を得る事が出来ました。

また今回初めて全員の集合写真を三〇分近くも掛かって撮りました。

水田先生に乾杯の発声をお願いし、飲食そして歓談の運びとなりました。

豪華景品を用意してのビンゴゲームは大いに盛り上がりましたが、ゲーム機の作動が遅くて時間をとられ、恒例のジャンケンゲームは取り止めざるを得ませんでした。

引き続き、隣の部屋で八十六名の参加を得て二次会を開催しましたが、カラオケまで飛び出して、とても七十歳を迎えるとは思えない元気さでした。

「もう、ええ歳になつてきたから、今後三年毎に開催しては」との意見も



頂きましたが、又、世話人で検討します。

例年に比べ会場が狭かったと思いますが、出欠締切り近くなって七〇名程度と少なく、諸般の事情から狭い部屋に変更した次第です。

でも、狭いながらも楽しい集いであつたと思つていただければ幸いです。

卒業後35周年記念同期会
 高校28期 乾 憲隆
 日時…平成23年9月23日
 場所…ホテルアイボリー

同期会イベントとして当日12時より母校の見学を行いました。

○校内見学として
 尚和会館(現在の教室)当時の机(机とイスが繋がっているのがまだあるんですね)がある教室(屋上)



恩露園(恵風苑)体育館等を1時間にとり案内して頂きました。

○その後、校庭の外周を一周し「登録有形文化財、桜の堀」を見学。

一路会場へと向かいました。

案内して下さった校内理事の桑田先生には一同厚くお礼申し上げます。



卒業30周年記念
高33期同期会報告

高校33期 末永 道久

「やる気のない33期」

「なんにもしよらん33期」

「33期は、もはや死に体」

.....

まったく、ありがたくないレッテルを貼られてしまったものだ。

むりもない。なにしろ、われわれ33期生は、卒業後の三〇年間で同期関連の活動実績ゼロ。そればかりか、今や代表幹事すら不在という・いた・ら・く・な・の・だ・か・ら・。

実際、なんにもせんままの30周年であり、いつのまにやらの30周年である。母校を離れて、ちょうど三〇年。かような節目の年でさえ、やっぱり「な

んにもせんまま」なのか……。

業を煮やした一部の33期生が、ついに声をあげた。これを機に、同期会でもやらかそうではないか、と。

ともかく会開催を決定。昨年十月のことだった。

やるなら、年度末である三月までに間に合わせたい。30周年記念とキリがいうえ、なんといっても、助成金という余録がつく。五の倍数周年開催分にかぎり、尚和会がいくばくかの金額をカンパしてくださるのだ。どうせならそいつをいただかないテはない。

助成金に目がくらみ、開催予定日を年度末ギリギリ、三月最終土曜日であ

る二十四日へ強引にねじこんだ。

本番まで五ヶ月の猶予しかない。あわただしく実行委員会が立ち上がり、開催へ向けて本格始動した。

スタッフ連の情熱が伝染したか、やがて協力者が続々と現れ、準備は加速。はい段階で（※当日は大安、しかも高校野球シーズンだった中というむずかしい時期にもかかわらず）会場の確保に成功、さらに、同期生およそ四〇〇名の所在を把握した。在学中お世話になった先生方からは、相澤昂、赤羽根充男、後藤保二、刀禰（仲）明世、山崎一徳の各先生（※五十音順）が出席してくださることになった。

当日――。



尚和会受付を設けました



音響も同期生が担当



フタを開けてみれば、参加者その数、実に二〇〇名超。関西圏外在住組をもふくめ、案内状を受け取った同期生のほぼ半数が、大阪・中之島に集結したのである。

実行委員長・

赤松武（三年八組）がやや興奮の面持ちでステージに登場。

「ほんつとに集まったなという感じで、ビックリしております……」

委員長挨拶に続き、先生方からのお言葉、乾

杯、赤羽根先生の華麗なるマジックショー、元フォー研メンバーらによるなつかしのパフォーマンス、先生方への記念品&花束贈呈等々……時間とともに、ボルテージは上昇一途、いつしか、テーブル間には活発な往来が生まれ、そこそこで談笑の花が咲きほこり、そのあいだを縫って酔人が乱舞するというありさまである。

そんな光景をながめわたししながら、幹事の一人が吼えた。

「これが33期の底力や！」

なんのことはなかった。やる気がないどころではなかった。寝たふりをしていたにすぎない。実は総勢、このような機会を薄目をあけて待ちつづけていたのだった。

瞬間的に流れ去った三時間。締めくくりは校歌斉唱。歌声が会場内に響きわたり、最後の残響が消えてまもなく、ひとまず一次会の幕は下りた。

かくして、わが33期初の同期会は、まさに沈黙の三〇年、その鬱憤をはらすかのような爆発的盛況を呈した。その後の二次会でも勢いは止まらず、一次会出席者の八割以上がそこへなだれこむエキサイトぶりを示したのである。

会場・リーガロイヤルNCB

（※一次会、二次会とも）

日時：二〇二二年三月二十四日（土）

出席者数：（二次会）二〇一名

（二次会）一七一名

※なお、同期会開催支援助成金（金五万円也）を尚和会より拝受。この場をお借りして御礼申し上げます。また、お忙しいなか、ご出席いただきました五名の先生方、ほんとうにありがとうございます。次回もまたぜひ。高33期生一同、心よりお待ちしております。



高校33期 総勢200名を超える盛大な同期会となりました。

38期同窓会報告 25年ぶり同窓会に見つからない タイムカプセルが運んで きたもの

38期卒業生 小林 孝明

1986年の夏、卒業して間もない38期3年10組の仲間たちは、また学び舎に集まっていた。誰が言い出したのか、タイムカプセルを埋めるためです。その場に居合わせた誰もが、そのカプセルは、割と早く掘り起こされるもの、と信じていたように思います。しかし時は流れ、意外にも25年ぶりにしてはじめて同窓会の話が昨年もちあがり、カプセルはようやくその機会に開けられることとなったのです。猛暑八月の陽射しの中、有志数名とその家族が25年ぶりに母校に集結、タイムカプセルを埋めたはずの正門横の植込で大捜索が行われたのでありました。手掛かりは当時の記憶と数枚の写真。掘り起こされるのは時間の問題だとはじめは思っていました。しかし捜索は思わぬ難航となり、汗だくになって丸一日を要した甲斐もなく、カプセルは結局見つからずじまいとなっていました。それでも9月に開催された同窓会は、担任だった中井潤也先生、級友の半数以上が出席する計26名の大会となり、まるで昨日まで共に過ごしていた仲間のように皆が思い出話に花を咲かせたのでした。そんな宴の席で紙とペンが回ってきました。紙には『60歳の私へ』とありました。『16年後か…、きつとすぐやってくるな…』同窓会の開催からしばらくが過ぎ、木枯らしが吹きはじめたある日、次回同窓会の幹事からのメールが届きました。学生時代にポケベルさえなかった世代の人たちが携帯電話やPCを

自在に操って連絡しあっています。今の時代は当時夢見た未来を部分的には超えているのかもしれないと笑いながら、メールを開くとそこには新しいタイムカプセルを埋める日が決まったとありました。困ったことに私はその日、あいにく仕事の予定があり、仕方なく作業は有志に任せることとなりました。16年後（2027年）もまだ花のある世界であってほしい、すべての仲間や子供たちが、当時桜塚に集った私たちのように生きることを心から楽しみにしますようにと思いを込めて、私はその昔桜塚高校にあった朝顔の鉢植えからいただいた毎年育てていた朝顔の種をカプセルと一緒に入れてもらえるよう幹事に送り託しました。新しいカプセルを埋設する日、仕事に向かう車の窓から見えたのは今にも泣き出しそうな空模様。作業が終わるまで降らないでくれよと、晴れ男パワー全開で有志のために祈りました。夕方、携帯電話にメール着信がいくつか。有志たちからの「無事終わりました」「送ってもらった種はちゃんと入れました」の連絡。雨は降らずに済んだそうだなにより。添付の写真をみると新タイムカ

プセルはなかなか手の込んだ設置。モルタルで固めて御影石の蓋、今度は絶対見つけれられるようにとソーラーのLEDライトまで付いています。すごい、すごい。さすがこのあたりはみんなオトナになっているんだなと妙に感心してしまいました。日本中で「絆」を問い、確かめあったその年に、この同窓会の開催。そしてキラキラした思い出があり、今の自分のたくさんの部分がつくれた母校桜塚高校に再び立てたということ。それらはセンチメンタルやノスタルジーではなく、運命を感じずにいられない出来事であったように思います。見つからなかったタイムカプセルは残念でしたが、思い出や懐かしさの代わりに、これからもずっと仲間である人達、そして『今』や『これから』をちゃんと生きていこうと思える「希望」を運んできてくれたのではないかと思います。最後になりましたが、タイムカプセルの捜索や新たに埋設することを寛容にお許しただけました校長先生はじめ関係者皆様にご場をお借りしまして改めて厚く御礼申しあげたいと思います。ありがとうございました。



日時

平成24年11月18日（日）
12：00～15：00（受付開始11：40より）

場所

TKPガーデンシティ品川「ネクサスウインド」ホール
東京都港区高輪3-13-3 Tel 03-5449-7300
JR品川駅高輪口より徒歩3分

会費

7,000円
卒業5年以内の会員は5,000円（当日受付）

東京支部総会 のご案内

テーマ

『私の好きな桜塚』

アトラクション

桜塚高校軽音楽部出演（東京初遠征）

関東在住の東京支部会員へは後日別途詳細案内状を送付いたします。

東京支部長 北村正和（高14期）
（090-7224-0494）

同期会開催予告

桜花会傘寿祝の会御案内

日 時

平成二十四年六月六日
午前十一時三十分 受付

会 場

梅田グランドビル
27F

会 費

5,000円
(予定)

今年四月一日を以て、私達同期生一同満八十才となりました。
昨年六月六日、桜花会プラスワンを、梅田白楽天で催しました所、予想を上回る三十五名の参加者となりました。
振り返れば、昭和三十八年、豊中近辺に住む数人の級友と手元の住所録を頼りに名簿作りを始めました。
記録に残って居りますが、昭和三十八年からの同期会です。
その後、誰が決めた訳でも無いのに、この平成二十四年迄、一度の途切れも無く続いて居ります。
古い会計報告には、会費五〇〇円、おすし三〇〇円とあり時の流れを感じさせられます。
還暦記念の岐阜から明治村への観光旅行、古稀の有馬温泉から六甲山ホテルの一泊旅行等々もありました。
今手元にあります色褪せた小さなノートにはお招きした恩師、参加者の一人一人の名前が綴られて居ります。
開催場所、幹事の名前、会費の収入支出等すべて正確に記されて居ります。
この会を桜花会と名付けたのも六月六日に決めたのも、私の独断でしたが、誰一人反論する人もなく、唯の一度も仲間割れする事もなく
今日迄桜花会が続いたと云う事は、私達同期生の誰もが、何の飾り気もなく本音で、話が出来、青春時代の友情をそのまま育んで来られ
たからと信じます。
直江先生に教わっていた頃、先生が、吉野の花見に行かれた話をされた後「私は、満開の桜も良いけれど、葉桜は風情があって、桜の時
期より好きだ」と仰言った事を思い出して居ります。
桜花会も満八十才より葉桜となり、夜露を受けて、しっとりと静かに暮すのも、良き哉と思いを巡らして居ります。 女八 中村陽子

連絡先
石原綾子
自宅 072-752-1545 FAX 072-752-1587
携帯 090-8986-1998
小澤澄子
自宅 (FAX共) 075-581-3906
携帯 090-5664-2207 アドレス sumi-3906...@docomo.ne.jp
中村陽子
youko-nakamura-baba@nifty.com 携帯 ba-ba-04010-ken@docomo.ne.jp
FAX 06-6844-1570

案内状は、昨年の参加者宛に送りますので皆様口コミで申
し送りをお願い致します。

訃報
西田満千子様 旧姓福武
平成二十四年一月一日 御逝去されました。
御冥福をお祈り致します。
合掌

高四期生卒業60周年記念と傘寿 の祝いを併せ開催いたします。

日 時

平成24年8月9日(木)
午後1時

会 場

ヒルトンホテル
金閣の間

尚、詳細は6月中旬にご案内します
幹事代表 北野定子
06-6421-4313

高校15期生関東地区 同期会のお知らせ

日 時

平成24年11月18日(日)
12:00~

場所、会場等は会報16ページ掲載の「東京支部総会のご案内」の通りです。
総会にご参加いただき、終了後同ホテルの別宴会場にて15期生のみの二次会
を開催いたします。奮ってご参加下さい。
詳細は東京支部より送付されます総会案内に同封いたします。
関西からの同期生参加も歓迎です。(問い合わせは大島まで)
会長 大島光昭 (090-3053-8038)
幹事 岡田泰夫 (090-9146-2631) 金谷宗敏 (090-4274-0828)

東京での開催は初めてです。

もう
ゴールデンを知った私は、
は使えない。

新・アクリル 絵 具
for Artist
GOLDEN
A C R Y L I C S
ゴールデン アクリリックス

右も、左も、
おなじ色ではもの足りない。
新、個性色。
ゴールデンアクリリックス
ひとりひとりの個性を、おなじ絵
具で表現しきれないだろうか。もっ
描きたいものがある。もっ、造りた
いものがある。となりとおなじ絵具
ではもの足りないあなたの創造力に、
新アクリル絵具、ゴールデンアクリ
リックス。
色の伸び、発色の良さ、そして多彩な
メタリック群が、アメリカのアートイ
ストから絶賛を浴びた名品です。
◆20ml 60ml 150ml 全98色
メタリック全33種

代表取締役社長 地 平 宏

明日の色をつくる
カラー 色彩株式会社

〒532-0032 大阪府大阪市東淀川区三津屋北2-15-7 TEL.(06)6308-1212
〒171-0052 東京都豊島区南長崎6-1-13 TEL.(03)3953-5161

ご宿泊、ご宴会、ご婚礼、レストランのご利用すべてのシーンに、
ぬくもりを感じていただける、それが (ホテル アイボリー) です

特別プラン、同窓会、OB会プラン

お食事、お飲み物
お一人様 4,500円 (税サ込)

ご予約は10名~20名様まで。※詳細は予約係までお問い合わせ下さい。

HOTEL
IVORY

ホテル アイボリー

〒560-0021 大阪府豊中市本町3丁目1番16号
TEL. (06) 6849-1111 (代) 予約直通 (06) 6849-5040

PCからのコントロールで簡単操作！
●動作状況 (電圧・電流値 etc) のチェック ●コントロール (倍率・フォーカス・コントラスト・明るさ)

MOBILESEM
MSK2000-A

持ち運べる
超小型の軽量
電子顕微鏡

<http://www.snd.co.jp/>

各種電子機器 (半導体製造・計測・制御・データ伝送等) の装置の販売
及び先端技術応用システムの開発を通じ、お客様のニーズにお応え出来
る技術と信頼の会社です。

新日本電工株式会社

代表取締役 小柳大吾 (高15期)

創立 昭和27年 (1952年) 資本金 1000万円

本社所在地	〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満2丁目6番8号 (堂島ビル6階) TEL : 06-6363-2001 (代表) FAX : 06-6365-8946
工場所在地	〒574-0014 大阪府大東市寺川4丁目8番26号 TEL : 072-871-3471 (代表) FAX : 072-871-3326
ホームページ	http://www.snd.co.jp/ http://youtu.be/Hqa1979ERbw

お便りから



平成二十二年五月から平成二十四年一月までにお送り頂いたものの中から掲載しています。

旧職 水田 紀久
本年3月で満85歳。すっかりほけました。

旧職 栗栖 恭子
尚和会会報、なつかしく読ませていただきました。ありがとうございました。

旧職 高岸 芳郎
会報お送り下さり有難う存じました。

旧職・高女三期 武田 昌恵
仙台市在住です。東日本大震災の同窓会からの義援金有難うございました。

旧職・高三期 赤崎 豊
5月15日（日）の総会、急に行けなくなりましてどうぞよろしく。

高女一期 中村 徳子
楽しく拝見致しました。

高女二期 吉岡万里子
はるかなる豊中校女しのびつ、思露志風、共になつかし。よろしくお願い致します

高女一期 武藤千代子
何時も会報楽しく拝見しております。

委員の方々のご尽力に感謝いたします。私もさ、やかなニット、スクール開設して六十年が経ちました。これも皆様のお蔭です。

高女一期 丹田 寧子
盛たく山な会報有難うございました。

高女三期 鳴海 靖子
たのしく読ませて頂きました

大地震で気がめいつている時に会報をいただき戦争中を頑張り通した若い頃を想い出し、これからも頑張りようと思いました。

高女三期 古川寿美江
いつも、いろいろお世話になり有難う

ございます。

高女三期 阿部 節子
何時もお世話になり有難う存じます。ひ孫にもめぐまれ健康に感謝して居ります。コーラスに参加し楽しんで居ります。

高女三期 梶田美智子
在京3期生一同元気に暮らし連絡を取り合つて老后を楽しんでおります。

高女三期 小倉 澄子
東北地方は地震、津波、原発といろいろ事故が重なり大変な年でした

高女三期 渡辺 玲子
会報ありがとうございました。入金おそくなりましたことおゆるし下さい

高女四期 若槻 静子
いつも尚和会会報をお送り頂き、感謝しております。幼かった女学生時代をなつかしんでおります。

高女四期 遠藤 静栄
会報ありがとうございました。編集下さる方々に感謝しつ、楽しく拝見させて頂きました。来年を楽しみに元気で待っております

高女五期 北村 嘉子
会報のお便りから部分、数行の言葉ながら、それぞれの気持がよくあらわれていて、青春の一時を思い出し楽しく、拝読しました。ありがとうございます。

高女五期 友松 長子
世の中が1度に変つてしまひ今度の尚和会報はとても嬉しいございます。又どうぞよろしく。

高女五期 酒井 治子
会報有難うございました。なつかしく拝見致しました。

高女五期 和氣 恭子
会報を拝受して物故者の御名前に在りし日をなつかしく合掌して居ります。とし相応に老化していますが、余生を前向きに明るく暮したいと願っています。

高女五期 小池 房代

「東北関東大震災義援金」としてご寄付いただきありがとうございます

高女五期 林 道子

会報ありがとうございました。東日本大震災に被災された方々、御見舞申し上げます。来年はきつと復興も進み被災地にも美しい桜の花が咲くことを祈っております。

高女五期 矢野 愛子

会報を楽しみにしております。有難く思っております。

高女六期 阿部 悦子

学校生活1年生は田園風景に恵まれて緑一色の制服すばらしい思い出ばかりでした。2年頃から戦争一色。卒業式の思い出は？かな

高女七期 吉久保美都里

茨城県水戸市で生活し57年になります。東日本大震災により水戸も被災しました。「尚和会」様より多額の義援金の御寄附を頂き誠にありがとうございます。

高女七期 渡辺 良子

風薫る佳き月に会報を頂き有難うございました。母校の発展をお祈り致します。

高女七期 藤井 妙子

ハンドボール部第1回国体に優勝（大阪代表）

高女八期 木方 嘉子

桜塚の歴史も長く、後輩の皆様の御活躍振りをうれしく拝見し、又、同じ時代を生きた友のお名前を見付けて喜ぶのも、この会報のお蔭と感謝しています。一言御礼を。

高女八期 細見 彰子

会報お送り頂き有難うございます。50名近い同期の方々のお写真をとても嬉しく拝見しなつかしさ一杯です。益々の御多幸お祈り申し上げます。

高女八期 小澤 澄子

野球部OBの皆さんマスターズ甲子園出場おめでとう!! 幾つになつても好きな事がやれるのは素晴らしいこと。体の許す限り続けることです。続けることで体も作られます。私も69才迄バスケの家庭婦人チームに在籍して全国大会に同行しました。そのお陰か80才の今も元気で70才から始めた卓球で毎日汗を流しています。私の在校中は国体にも連続出場出来て幸せでした。バスケの後輩の皆さんも頑張つて下さい。

高二期 岡本 秀子

恩露園にこんなに美しい枝垂桜があるとは知りませんでした。実のある会報、懐しく読ませていただきました。

高三期 西村 進

平成24年9月には80才になります。平成8年京都大学を退職し、平成24年に日本温泉科学会の会長を辞し、NPO京都自然史研究所を閉じる予定です。長い間の研究生生活は桜塚高校の天文部に発しています。ありがとうございます。

高三期 増山 和子

毎年の会報楽しみにしています。今回はうっかりしていまして遅くなりました。

高四期 林 正宏

毎年このゴールデンウィークに到着する会報が楽しみです。母校の写真も紹介して下さい。

高五期 中川 克子

現在体調を崩しています。少しですが、協力金と会報代送附申上げます。

高五期 西田 恭子

失礼してすみませんでした。やつと落着きましたのでおよろしく
高五期 浜崎 啓子
いつも遅くなつて申し訳けありません。つい忘れておりました。

高五期 秋田 良子

今年は一月、早々より体調を崩し、入院、手術をうけ大変な年になりそうです。年には勝てませんね。いつも会報をありがとうございます。

高六期 久津間昭江

尚和会会報ありがたく拝受致しました。一病息災・平穩に過しております。今年は大傘寿。私、喜寿。長男夫妻銀婚式。次男夫妻水晶婚式とお祝事が一杯詰つて、記念の年になりそうです。

高六期 岸本 元子

今年は東日本で大変な事が起りました。尚和会からも赤十字へ寄付された事を知り良かったと存じます。個人でも少しはしましたが。

高六期 西田 明子

お世話様になり、有難うございます。年令も距離も遠くなりましたが、会報を楽しみにして居ります。

高六期 廣島 喜子

東北地方への義援金として協力させていただきました。

高六期 杉本 悟

しばらく、留守をしておりました。おそくなりました。

高七期 築坂 加寿

高女3期85才。高3期79才。高7期75才。（旧姓牧）三姉妹。後期高齢期をそれぞれ何とか、何とか頑張つております。

高七期 関 高明

今年も充実した内容の尚和会会報を送付いただきありがとうございます。役員の方々に感謝申し上げ、ますますのご活躍をお祈りいたします。

高七期 仁木 悦子

会報有難うございました。喜寿記念同期会？楽しみにしています。玉川上水辺り（三鷹市）より

高七期 松浦 峻

いつも楽しみに拝見しています。母校

の発展を祈っています。

高七期 加藤恵美子
震災のため遅くなりました。大変、カラフルで、字も大きく、見やすい会報、ありがとうございます。

高八期 山縣 啓二
会報、楽しみに見えています。特に「会報・協力金」の欄卒業生の元気情報として活字を追っている次第です。皆様お元気で。2011、5月

高八期 神田 一三
卒業以来、初めて総会に参加いたしました。懐かしい先輩にもお会いできました。

高八期 阪本 和子
山岳部、OB会、高谷クロパン先輩とお陰様で連絡がとれました。感謝です！阪本（旧山内）

高八期 川原 慶三
後期高齢者の仲間入りの年齢になり、歳に逆らわないで心身ともにスローペースで日々楽しく暮らしております。「尚和会会報」は、唯一心を若返らせてくれます。役員の皆様にお世話になります。が、今後ともよろしくお願い致します。

高九期 中村 清嗣
沿革について 副会長（広報担当）

高崎健治様にメールで一言申し上げています。再考を希望します。（当時の同窓生に連絡しても不満多しです）

高十期 倉石豊美子
会報ありがとうございます。「制服リニューアル」の記事。驚きました。女子は素敵な色、スタイルー男子の詰め襟は、なんでエ？

高十一期 三河 勝彦
大阪府立桜塚高校同窓会尚和会の皆様の東日本大震災への御見舞・支援に対して厚く感謝申し上げます。沿岸部の津波による被害は甚大でしたが、自宅は山沿いの為被害はまぬがれました。地域の復

興には時間がかかると思いますので今後共よろしくお願いいたします。

高十一期 高橋 邦子
会報ありがとうございます。私の夫は宮城県石巻市出身です。この尚和会より東日本大震災の被災地に多額の義援金を送って頂き本当にありがとうございます。

高十二期 阿部 佳隆
昨秋卒業50年同期会に出席。古希を迎え懐しく友人と語り思い出一杯。アツという間のひとときでした。一方逢いたい

思った旧友が亡くなって寂しい思いがする。元気なうちに再会しようと8、9組有志は4月にクラス会開催。もう一度青春時代を甦えそう。

高十二期 庄司喜代教
高全10期から14期までの柔道部員の其後が判明の節は知りたいものです。

高十二期 阿部 佳隆
8、9組年2回クラス会開催。昨秋は箕面（山帰来）で昼食。その後、滝まで散策。青春時代の思い出、近況報告に話しはずみ、二次会まで皆様がお付き合

い。アツという間のひとときでした。次回は貴方もご出席下さい。

高十三期 鹿島 紀子
卒業50周年の同窓会で恩師、旧友に会え、楽しい一時を過ごせまして、幸せを感じております。

高十四期 安達寿美子
「制服変えたいねん」の記事を読み時代の流れを感じました。私は胸で切り変

えがあり、ウエストでふんわりと締めるジャンパースカート。ダブルの打ち合わせでウエストまでのジャケットは他に見られないデザインであこがれでした。卒業後も茶色の他の布地で作って着用し、良いものでした。

高十四期 澤田 雄三
私は高14卒業ですが、入学した時は高

13と同窓です。2年生になった時の身体検査で病気が発かくし1年間休学をし高14期となりました。高13期の方々もなつかしく思い出されます。

高十四期 中村 泰三
4年後の2015年に京都で開催予定の「第29回日本医学会総会」運営の為京都大学医学部内に開設しました「準備室」の責任者として活動しております。

高十五期 福士 凱彦
会報誌のロゴ、「想い出とともに拡がる同窓の輪」は素敵なひびきですね。この冊誌には、色づかいや配列、文字の大きさ等さまざまな工夫がされ、目に訴えるものが強く、読み易いのが最高です。会報が届くこの季節が楽しみです。ありがとうございます。

高十五期 桑原 修三
今年の5月に念願のドイツ、スイス、フランスを巡ってきました

高十六期 渡邊 源治
一年で早いものですね！今年も又がんばりたいなあと思っています。しかし同期生の計報を聞くと寂しくなります。

高十七期 柴田 俊子
毎年懐しく拝見しております。益々の御発展をお祈りしています。

高十七期 稲野智恵子
会報有難うございました。

高十七期 金山 明彦
この年でサイクリングにはまっています。今年は「しまなみ海道」「琵琶一」制覇。

高二十期 山口 恭史
4月に、初めて音楽部（神田詩朗先生を囲む会）の同窓会があり、20余名が集まりました。楽しかったですよ。

高二十期 鈴木 幸子
4月、5月と入院してしまいました。あと半年通院治療が必要となり少し大変ですが、減量？出来ました。

高二十一期 富永 操
お世話されている方、いつも有難うございます。今後もよろしく願いいたします。

高二十一期 小松 友代
野球部OB会、甲子園出場おめでとうございます。写真の中に同期生のなつかしいお顔もあり嬉しく思いました。

高二十二期 小井 英嗣
今年はイヨイヨ還暦です。

高二十二期 市野理枝子
お疲れさまです。いつもありがとうございます。

高二十四期 松野喜代子
尚和会の会報を、懐かしい過去を振り返りながら、毎年、読ませて頂き感謝致しております。

高二十五期 武田 義彦
大変な状況の日本です。皆で力をあわせてがんばりましょう。

高二十五期 大田 雅人
クラスの幹事、誰れだったけ？

高二十六期 田中 逸郎
卒業してから、もうすぐ40年。今もたまに桜塚高校山岳部唱歌が、頭の中を巡り、口遊む時があります。

高二十六期 池田真沙子
あのジャンパースカートの制服が引き継がれていたのですね！新しい制服も素敵ですね。

高二十七期 村上 雅子
毎年5月の会報を楽しみにさせて頂いております。

高二十九期 梅村多賀子
協力金を一部義援金にあてさせていた

できました。例年より少額になり申し訳ありません。

高三十期 安達千恵子
昨年公益社団法人「小さな親切」運動のハガキコンクールで入選して表彰していただきました。2月に「65のありがと

う」という人賞作品集に載っております。

高三十三期 河野 雅子
制服の伝統が守られなかったことを大変残念に思います。

高三十三期 菊川 雅之
尚和会総会へ昨年初めて出席させて頂きました。本年も宜しくお願い致します。会長様集合写真ありがとうございます。

高三十六期 村上佳津子
大震災の後の余震・余震で、何回積んでも崩れる書類の中から、年末大そうじ

でやっと振込用紙発掘できました。社会人なつてからの協力金連続がこれで更新できます。

高三十七期 松下 和子
東日本大震災において被災された方々亡くなられた方にお見舞いとご冥福をお祈りし、今ふつうに暮らせる事に感謝の日々です。

高四十期 井原 真琴
会報いつもありがとうございます。マスターズ甲子園出場おめでとうございます。

高四十二期 神谷由美子
会報を大変なつかしく拝読しました。

高四十五期 磯崎 知美
予定通り、深津（旧姓山本）恵子の弟達深津旭弘（J.T）、深津貴之（豊田合成）入団、全日本大学男子バレーボール至上初「五冠達成！」満足しています。

高五十七期 柴田 綾
昨年（今年分）会報を頂きそこねましたが、同窓会で、見ることができ良かったです。来年もよろしく願います。

高定六期 塩田 廣一
2011年は数百年に一度という自然災害を被った日本。2012年は政治変革があると聞きます。祈安穩。

平成24年尚和会新年会報告

高校15期 行事委員 南 正枝

今年度の新年理事会、評議員会は、平成24年1月15日、リーガ・ロイヤル・ホテルにて開催されました。新年早々寒いにも拘わらず56名の参加があり、華やかな新年のスタートをきる事が出来ました。まず大畠会長の挨拶から始まり各委員会報告の後、いよいよ、お楽しみ会の会食、さすがリーガ・ロイヤルのお上品な会食、次々と出される中、宴たけなわになろうとした



時、小山校長から今年の学生のセンター試験の状況の報告があり、ご自分が出版された本の紹介をして下さいました。『空手道の教育力』という本。空手を通して人間を磨いていく教育のあり方が書かれている本を出版されたとの事。会の終りに先生のサイン入りで沢山の方が買っていました。先生、一瞬の間、有名スターの様でした。我々の子供に、孫の為にこの本が役に立っていくのではないのでしょうか。そして恒例の福引きになり、いつも高五



福引き・会長賞授与 坂井岑嘉氏（高11期）
（景品は賞金、宝くじ、リーガ・ロイヤル宿泊券）



第6代尚和会会長越水ユリ氏（高女1期）を囲んで

期北之坊英美子さんのありがたいご提供により沢山の景品を出していただきました。何が当たるのだろうかと思しみの中、皆が参加させて頂き、最高の会長賞が「リーガ・ロイヤル・ホテルで一泊宿泊招待券」というのは非常な魅力でした。今世界経済不況、マスコミでも楽しい事は、ほとんど報道されていない昨今、又もうすぐ東日本大震災一周年を迎えてまいりますがこの日だけは何もかも忘れて楽しい一時を過ぎて頂きました。

平成二十三年物故者芳名
（平成23年1月1日～12月31日まで）

高女1期	霜浦 洋子（河本）	H・23・2・7
高女2期	横田 泰子（中村）	H・23・12・30
高女4期	武田 昭子（坂本）	H・23・3・20
高女5期	萬代美年子（竹中）	H・23・3・18
高女6期	植田 彰子（川村）	H・23・1・6
高女7期	矢ヶ崎アヤ子（照内）	H・23・5・10
高女8期	岡本 愛子（堀尾）	H・23・3・3
高女9期	進藤 鈴代（七里）	H・23・7・11
高女10期	福岡 孝子（東）	H・23・8・25
高女11期	守屋奈加子（古川）	H・23・9・27
高女12期	粉川 洋子（矢野）	H・23・4・26

高4期	井上 博介	H・23
元根 君代（川面）	H・23	
内田 章子（肥塚）	H・23・6	
河本 昌子（浜田）	H・23・9・12	
高5期	森田 寿一（太田）	H・23・2
木谷 隆之	H・23・3・4	
菊塚 功	H・23・9・12	
佐藤 嘉男	H・23・6・6	
新谷 隆夫	H・23・7	
水田 道彦	H・23・3・26	

ご冥福をお祈り申し上げます。

加藤 愛子	中島美恵子	杉原 笑子	矢島 節子
橋本美智子	寺本 昭子	中山 千恵	中野 昭子
森田 昭子	三原 節子	中山 文子	柄田 保子
森田 美智子	桑原 孝子	古銭 孝子	紀田 美和
堀尾 迪子	鎌田 浩子	高橋田鶴子	木本 裕子
藤原 秀子	三戸 敦子	稲益智恵子	河合 貞子
千円	合原 正枝	河村 令子	大島 澄子
●高女4	岸上 道子	竹中 和子	阿部 節子
六千円	猪瀬 綾子	小倉 澄子	尾野上末子
五千円	高木志摩子	梶田美智子	尾野上末子
四千円	山田 和子	小林 利子	佐藤 春
三千円	古川寿美江	西村 照子	牛田 勝子
二千円	吉澤 幸子	永井伊都子	阿部 揚子
●高女3	鳴海 靖子	森 玲子	永野 弘子
二千円	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
●高女2	南 寿美子	君塚 節子	杉本 鈴
二千円	角山 和子	渡辺 玲子	豊原 弘子
三千円	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
四千円	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
五千円	樋口由貴恵	武藤千代子	吉岡万里子
一万二千円	越水 ユリ	吉岡万里子	
●高女1	阿曾 久子	岡本千代子	川原由多子
千円	中村 徳子	富田 睦美	藪内 孝子
安孫子恒子	金津 芳子	福田 せつ	丹田 寧子
北江 淑	奈須野裕子	立石 房	二宮 愛江
三千円	高木 春子	春日小夜子	吉岡万里子
四千円	坂本 英子	武藤千代子	
五千円	樋口由貴恵	武藤千代子	
●高女2	越水 ユリ	吉岡万里子	
●高女3	横野 順子	北川富美子	下田 喜代
千円	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
二千円	沢田 恒子	渡辺 玲子	杉本 鈴
●高女4	森 玲子	永野 弘子	豊原 弘子
●高女5	吉野 良子	河野 敏子	阿部 揚子
●高女6	永井伊都子	富川 愛子	牛田 勝子
●高女7	西村 照子	佐伯 栄子	牛田 勝子
●高女8	山田 和子	小林 利子	佐藤 春
●高女9	古川寿美江	西村 照子	牛田 勝子
●高女10	吉澤 幸子	永井伊都子	阿部 揚子
●高女11	鳴海 靖子	森 玲子	永野 弘子
●高女12	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
●高女13	南 寿美子	君塚 節子	杉本 鈴
●高女14	角山 和子	渡辺 玲子	豊原 弘子
●高女15	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
●高女16	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
●高女17	樋口由貴恵	武藤千代子	吉岡万里子
●高女18	越水 ユリ	吉岡万里子	
●高女19	阿曾 久子	岡本千代子	川原由多子
●高女20	中村 徳子	富田 睦美	藪内 孝子
●高女21	金津 芳子	福田 せつ	丹田 寧子
●高女22	奈須野裕子	立石 房	二宮 愛江
●高女23	高木 春子	春日小夜子	吉岡万里子
●高女24	坂本 英子	武藤千代子	
●高女25	樋口由貴恵	武藤千代子	
●高女26	越水 ユリ	吉岡万里子	
●高女27	横野 順子	北川富美子	下田 喜代
●高女28	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
●高女29	沢田 恒子	渡辺 玲子	杉本 鈴
●高女30	森 玲子	永野 弘子	豊原 弘子
●高女31	吉野 良子	河野 敏子	阿部 揚子
●高女32	永井伊都子	富川 愛子	牛田 勝子
●高女33	西村 照子	佐伯 栄子	牛田 勝子
●高女34	山田 和子	小林 利子	佐藤 春
●高女35	古川寿美江	西村 照子	牛田 勝子
●高女36	吉澤 幸子	永井伊都子	阿部 揚子
●高女37	鳴海 靖子	森 玲子	永野 弘子
●高女38	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
●高女39	南 寿美子	君塚 節子	杉本 鈴
●高女40	角山 和子	渡辺 玲子	豊原 弘子
●高女41	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
●高女42	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
●高女43	樋口由貴恵	武藤千代子	吉岡万里子
●高女44	越水 ユリ	吉岡万里子	
●高女45	阿曾 久子	岡本千代子	川原由多子
●高女46	中村 徳子	富田 睦美	藪内 孝子
●高女47	金津 芳子	福田 せつ	丹田 寧子
●高女48	奈須野裕子	立石 房	二宮 愛江
●高女49	高木 春子	春日小夜子	吉岡万里子
●高女50	坂本 英子	武藤千代子	
●高女51	樋口由貴恵	武藤千代子	
●高女52	越水 ユリ	吉岡万里子	
●高女53	横野 順子	北川富美子	下田 喜代
●高女54	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
●高女55	沢田 恒子	渡辺 玲子	杉本 鈴
●高女56	森 玲子	永野 弘子	豊原 弘子
●高女57	吉野 良子	河野 敏子	阿部 揚子
●高女58	永井伊都子	富川 愛子	牛田 勝子
●高女59	西村 照子	佐伯 栄子	牛田 勝子
●高女60	山田 和子	小林 利子	佐藤 春
●高女61	古川寿美江	西村 照子	牛田 勝子
●高女62	吉澤 幸子	永井伊都子	阿部 揚子
●高女63	鳴海 靖子	森 玲子	永野 弘子
●高女64	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
●高女65	南 寿美子	君塚 節子	杉本 鈴
●高女66	角山 和子	渡辺 玲子	豊原 弘子
●高女67	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
●高女68	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
●高女69	樋口由貴恵	武藤千代子	吉岡万里子
●高女70	越水 ユリ	吉岡万里子	
●高女71	阿曾 久子	岡本千代子	川原由多子
●高女72	中村 徳子	富田 睦美	藪内 孝子
●高女73	金津 芳子	福田 せつ	丹田 寧子
●高女74	奈須野裕子	立石 房	二宮 愛江
●高女75	高木 春子	春日小夜子	吉岡万里子
●高女76	坂本 英子	武藤千代子	
●高女77	樋口由貴恵	武藤千代子	
●高女78	越水 ユリ	吉岡万里子	
●高女79	横野 順子	北川富美子	下田 喜代
●高女80	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
●高女81	沢田 恒子	渡辺 玲子	杉本 鈴
●高女82	森 玲子	永野 弘子	豊原 弘子
●高女83	吉野 良子	河野 敏子	阿部 揚子
●高女84	永井伊都子	富川 愛子	牛田 勝子
●高女85	西村 照子	佐伯 栄子	牛田 勝子
●高女86	山田 和子	小林 利子	佐藤 春
●高女87	古川寿美江	西村 照子	牛田 勝子
●高女88	吉澤 幸子	永井伊都子	阿部 揚子
●高女89	鳴海 靖子	森 玲子	永野 弘子
●高女90	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
●高女91	南 寿美子	君塚 節子	杉本 鈴
●高女92	角山 和子	渡辺 玲子	豊原 弘子
●高女93	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
●高女94	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
●高女95	樋口由貴恵	武藤千代子	吉岡万里子
●高女96	越水 ユリ	吉岡万里子	
●高女97	阿曾 久子	岡本千代子	川原由多子
●高女98	中村 徳子	富田 睦美	藪内 孝子
●高女99	金津 芳子	福田 せつ	丹田 寧子
●高女100	奈須野裕子	立石 房	二宮 愛江
●高女101	高木 春子	春日小夜子	吉岡万里子
●高女102	坂本 英子	武藤千代子	
●高女103	樋口由貴恵	武藤千代子	
●高女104	越水 ユリ	吉岡万里子	
●高女105	横野 順子	北川富美子	下田 喜代
●高女106	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
●高女107	沢田 恒子	渡辺 玲子	杉本 鈴
●高女108	森 玲子	永野 弘子	豊原 弘子
●高女109	吉野 良子	河野 敏子	阿部 揚子
●高女110	永井伊都子	富川 愛子	牛田 勝子
●高女111	西村 照子	佐伯 栄子	牛田 勝子
●高女112	山田 和子	小林 利子	佐藤 春
●高女113	古川寿美江	西村 照子	牛田 勝子
●高女114	吉澤 幸子	永井伊都子	阿部 揚子
●高女115	鳴海 靖子	森 玲子	永野 弘子
●高女116	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
●高女117	南 寿美子	君塚 節子	杉本 鈴
●高女118	角山 和子	渡辺 玲子	豊原 弘子
●高女119	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
●高女120	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
●高女121	樋口由貴恵	武藤千代子	吉岡万里子
●高女122	越水 ユリ	吉岡万里子	
●高女123	阿曾 久子	岡本千代子	川原由多子
●高女124	中村 徳子	富田 睦美	藪内 孝子
●高女125	金津 芳子	福田 せつ	丹田 寧子
●高女126	奈須野裕子	立石 房	二宮 愛江
●高女127	高木 春子	春日小夜子	吉岡万里子
●高女128	坂本 英子	武藤千代子	
●高女129	樋口由貴恵	武藤千代子	
●高女130	越水 ユリ	吉岡万里子	
●高女131	横野 順子	北川富美子	下田 喜代
●高女132	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
●高女133	沢田 恒子	渡辺 玲子	杉本 鈴
●高女134	森 玲子	永野 弘子	豊原 弘子
●高女135	吉野 良子	河野 敏子	阿部 揚子
●高女136	永井伊都子	富川 愛子	牛田 勝子
●高女137	西村 照子	佐伯 栄子	牛田 勝子
●高女138	山田 和子	小林 利子	佐藤 春
●高女139	古川寿美江	西村 照子	牛田 勝子
●高女140	吉澤 幸子	永井伊都子	阿部 揚子
●高女141	鳴海 靖子	森 玲子	永野 弘子
●高女142	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
●高女143	南 寿美子	君塚 節子	杉本 鈴
●高女144	角山 和子	渡辺 玲子	豊原 弘子
●高女145	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
●高女146	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
●高女147	樋口由貴恵	武藤千代子	吉岡万里子
●高女148	越水 ユリ	吉岡万里子	
●高女149	阿曾 久子	岡本千代子	川原由多子
●高女150	中村 徳子	富田 睦美	藪内 孝子
●高女151	金津 芳子	福田 せつ	丹田 寧子
●高女152	奈須野裕子	立石 房	二宮 愛江
●高女153	高木 春子	春日小夜子	吉岡万里子
●高女154	坂本 英子	武藤千代子	
●高女155	樋口由貴恵	武藤千代子	
●高女156	越水 ユリ	吉岡万里子	
●高女157	横野 順子	北川富美子	下田 喜代
●高女158	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
●高女159	沢田 恒子	渡辺 玲子	杉本 鈴
●高女160	森 玲子	永野 弘子	豊原 弘子
●高女161	吉野 良子	河野 敏子	阿部 揚子
●高女162	永井伊都子	富川 愛子	牛田 勝子
●高女163	西村 照子	佐伯 栄子	牛田 勝子
●高女164	山田 和子	小林 利子	佐藤 春
●高女165	古川寿美江	西村 照子	牛田 勝子
●高女166	吉澤 幸子	永井伊都子	阿部 揚子
●高女167	鳴海 靖子	森 玲子	永野 弘子
●高女168	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
●高女169	南 寿美子	君塚 節子	杉本 鈴
●高女170	角山 和子	渡辺 玲子	豊原 弘子
●高女171	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
●高女172	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
●高女173	樋口由貴恵	武藤千代子	吉岡万里子
●高女174	越水 ユリ	吉岡万里子	
●高女175	阿曾 久子	岡本千代子	川原由多子
●高女176	中村 徳子	富田 睦美	藪内 孝子
●高女177	金津 芳子	福田 せつ	丹田 寧子
●高女178	奈須野裕子	立石 房	二宮 愛江
●高女179	高木 春子	春日小夜子	吉岡万里子
●高女180	坂本 英子	武藤千代子	
●高女181	樋口由貴恵	武藤千代子	
●高女182	越水 ユリ	吉岡万里子	
●高女183	横野 順子	北川富美子	下田 喜代
●高女184	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
●高女185	沢田 恒子	渡辺 玲子	杉本 鈴
●高女186	森 玲子	永野 弘子	豊原 弘子
●高女187	吉野 良子	河野 敏子	阿部 揚子
●高女188	永井伊都子	富川 愛子	牛田 勝子
●高女189	西村 照子	佐伯 栄子	牛田 勝子
●高女190	山田 和子	小林 利子	佐藤 春
●高女191	古川寿美江	西村 照子	牛田 勝子
●高女192	吉澤 幸子	永井伊都子	阿部 揚子
●高女193	鳴海 靖子	森 玲子	永野 弘子
●高女194	田中 圭子	大島 裕子	西谷 静枝
●高女195	南 寿美子	君塚 節子	杉本 鈴
●高女196	角山 和子	渡辺 玲子	豊原 弘子
●高女197	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
●高女198	堀田 清子	藤井 寿子	阿部 揚子
●高女199	樋口由貴恵	武藤千代子	吉岡万里子
●高女200	越水 ユリ	吉岡万里子	

平成二十三年 会報代・協力金
◆ご協力ありがとうございました◆
（金額は納入合計額）

岡林みどり	酒井百合子	遠藤 静栄	廣谷 晴子	七千円	藤井 妙子	西村 澄子	岸田 玲子	畑 道子	横道 満子	六島 宏	森田千加子	仁木 悦子	宇都宮玲子	千円	乾 光昭	田中 敏勝
二千元	朴木 明石	植林 寿	尼木 久子	●高女8	荒木 幸子	山口 百子	山田 笑子	根岸 郁子	増田 明子	谷川 恭子	森田 小西 民子	池田 路子	岡 信子	千円	藤野 鐵造	中 敏勝
池長十三子	菊地 一栄	山本千鶴子	岡崎 妙子	中務 重子	高橋 董子	川添千代子	水川 和子	中島 昭典	久原 裕子	堀端 静子	紀伊 滋子	久原 裕子	松尾千恵子	千円	大星美智子	川井 弘美
鷺埜 昭子	上田 良子	豊田 佳子	岡部 佳子	二千元	木方 嘉子	柳生美津子	湯浅 温	山本 輝子	辻 恭子	水口 洋子	桜沢 尚子	築坂 加寿	美川 和子	富岡 直子	高橋 道子	浅野 節子
西田 恭子	川崎 美美	佐藤有紀子	広川みつ子	井上 恒子	岸本賀久子	細見 彰子	井上 博輔	金井 治夫	伊藤 慶子	岡 美知子	野村 敏子	亀田 政信	後藤 隆一	二千元	日高 明敏	宇野 和子
戸梶 愛子	平田 昭代	岡田 貞子	三箇山 政	紫藤 芳子	三木 幸子	小島 京子	森田 光子	澤田 貞子	伊藤 慶子	三千元	井上 真一	山口 一成	山下 眞一	東口 量子	谷 辰子	宇野 和子
三千円	高幣 つた	桐山 康子		紫藤 芳子	賀須井幸子	三井須美子	澤田 貞子	林 正宏	中西 巖	島袋 博次	永井 康夫	山口 一成	山下 眞一	萩野真理子	小菅美恵子	小笹喜久子
若槻 静子	大江 悦子	佐藤 芳子		芦田美佐子	桑木千鶴子	中村 陽子	川端 安世	駒井香英子		稲垣 瑛子	西野 俊子	加藤恵美子	大垣磨知子	山田 宏子	山口寿三枝	小笠原喜久子
五千円	大野富士子	鳥谷恵美子	熊谷 朝子	矢口 里子	岡崎ひな子	川端 安世	駒井香英子			儀間 和子	中山 弘子	辻本萬喜子	神田 英子	山田 宏子	内田 勝治	沖見 憲男
六千円	浜田美智子	永井 徳子		大野富士子	小川 道子	木下千代子				北野 伸美	上田 豊年	森川 淑子	畑 満季子	西澤 芳正	溝口 勝弘	松山 清子
一万二千元	大西ヒロ子			二万二千元	武田 昭子					三千百五十円	佐藤 二郎	長澤 久之	山口 良平	五千円	倉石豊美子	木村 忠夫
●高女5	勝田 愛子	佐野 幸子	杉山 玉緒	●高女1	芝山 敬子	木下 昌子	中川美那子			前田登美子	大西千枝子	小谷 寿子	紙谷 君子	六千円	杉浦 慶彦	一宮 吾郎
千円	久保 順	井上 惇子	田中 雅子	●高女2	宮本美智子	山西 信子				磯 京子	岡本 修	関 高明		千円	小池 秀之	稲田 博
大山寿美子	庄司安月子	徳田八重子	酒井 治子	●高女3	喜井智恵子	安達 良子				千円	安斎 昭	上西 寛	浦川 弘	千円	植田 信子	下浦 征司
増田トシ子	清水 成子	岡澤 敦子	河田眞壽子	二千元	宮本美智子	山西 信子	中川美那子			二千元	田井 清重	平野 光雄	松村 茂	千円	勝本 章子	岡 加代
内藤 葉子	長岡 郁江	森田 隆子	宮野 信子	三千元	浜田 知子					●高8	黒田トシ子	中井 淑子	高木 勝美	千円	中井 敏子	妹尾 和子
二千元	村瀬 方世	土井富士江	宮野 信美	●高2	安村須美恵	小川 尚子	小泉 節子			二千元	大上 昌子	谷田優里子	河野佐智子	千円	山田 弘子	近藤 千穂子
和氣 恭子	永澤登喜子	矢野 愛子	菅原 秋子	千円	石原 綾子	上田 和子	井上 明子			二千元	森田 淑子	富田 康子	増田 敏子	二千元	田上 貢平	遠阪 進
地井美千代	杉山 節子	林 道子	和田美智子	二千元	久野 慶子	上田 和子	井上 明子			●高10	河崎 守男	倉内知恵子		千円	奥田 智	唐沢 昭
木村 菊恵	栗田美智子	谷澤 和子	牛若ハツ子	●高4	清水ゆり子	近藤 拓郎	高谷 善雄	鈴鹿 裕子		六千円	井上 健	福田 安美	宮武健次郎	千円	村上 武	阿部 佳隆
三千円	土田 桂子	友松 長子	川野 悦子	二千元	近藤 拓郎	高谷 善雄	鈴鹿 裕子			一万円	谷 茂男	森本 行俊		二千元	村田 昌三	三浦 祥子
阪本 陽子	藤本 芳子	傍士 悦子	川野 悦子	三千元	豊田 寿夫	宗倉 節子	中西 京子			●高9	中村 清嗣	藤田 紀雄	松永 昌文	三千元	鳥牧 潔	井田 絃司
堀江知和子	津田 久子	正田 愛子	村主 和子	●高6	岩橋久美子	細谷 絹子	小林 寛子			二千元	竹中 義次	毛利 禮三	安浦 果	四千元	飯田嘉寿子	城越 弘子
服部智恵子	大里知萬子	植下佐千子	二宮 昌子	五千元	春木 和枝	増山 和子	中村千穂子			●高12	石本 享子	江口 愛子	原 登久子	四千元	赤木 征子	西島 詩子
堀井千代子	田口ヨシ子	横山 絢子	渡辺 康子	●高7	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新			●高13	望月 光子	吉田 友子	久瀬 恭子	六千円	庄司喜代教	南條 勝之
谷 千枝子	中川 和子	西垣 佳子	西村 悠子	●高10	川添 安洋	河村 勝	永田 利地	西村 豊		●高11	小池 秀之	下浦 征司	四本 隆成	七千円	荒木 久保	川西 敏夫
羽間美佐子	巽 和子	行岡 伸子	小池 房代	●高3	阿萬紀美子	上田 智枝	前田 暢子			●高12	伊藤 安利	黒田 八宏	坂井 岑嘉	●高13	奥田 智	唐沢 昭
六千円	北村 嘉子	廣賀 輝子	小池 房代	●高6	宇波 久子	大塚 禮子	福井 恭子	内藤 玲子		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
●高女6	阿部 悦子	金原知以子	秋山 清子	●高6	福谷 節子	福本 小篠	阪本 英子	小林 里津		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
千円	梅沢 幸子			●高6	多幡 貞子	松岡 公代	大平 誠	小塩 正人		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
二千元	富岡 豊子	芦田 恵子	楠元 絢子	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
野田美代子	佐藤千代子	出羽 千恵	三木セツ子	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
赤沢 満子	北島 安恵	早野久美子	長尾 正子	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
三好満智子	河合 倭子	石黒 絢子	喜多 靖子	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
阿波田絹子	万代 供子	佐野美智子	皆部 宗子	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
三千円	大森 英子	太田垣準子	毛利 克子	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
周産 年	許斐 浩子	森 繁子	高見 和子	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
指尾 千枝	近藤ひさ江	野崎 悦子	本莊 清子	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
森 妙子	須藤 和子	吉田紀美子	次田小珠恵	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
塚本美喜子	青木 操子	岩谷 冴子	汐月 和子	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
四千元	青木 操子	岩谷 冴子	汐月 和子	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
古澤 純子	高木 寿子	堀川 隆子	前田 清子	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
岡崎 尚子	川口 早苗	矢野 紀美		●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
六千円	伊藤富美子	伊藤 隆子		●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
一万二千元	佐藤 盈子	矢野 紀美		●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
●高女7	波多野良子	長田 昭子	山中 民子	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
千円	波多野良子	長田 昭子	山中 民子	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
松岡 周子	大川 恂子	進藤 鈴代	川谷あみ子	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
二千元	富田 恭子	衣川 全子	出口 珠子	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
森脇 晴子	宮本 博子	安井 初美	石田マリ子	●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
渡辺 良子	吉久保美都里	黒田 長子		●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博
四千元	上平寿恵子			●高6	山口 久幸	吉井内貞壽	横山 新	山口 修平		●高12	佐藤 昭夫	玉田 成男	西川 昌平	●高11	小池 秀之	稲田 博

嵐登美子	鹿島 紀子	西沢 通子	鈴木 雅子	不可三隆夫	大谷 士郎	中島 敏博	根来 信介	六千円	榎本喜志郎	平松 晴紀	藤原 美紀	内海 静子	河野 雅子	秋田 博子	赤松 武
中奇子	二本 澄子	市原 洋子	和南城洋子	寺西 悠子	中津嘉代子	長生 豊子	小田切元恵	一万円	首藤 修一		安田 太	松島 悦子	飯高 進	井口 博	岩井 匡二
近藤 悦子	杉本 晓子	坂本 修子	石平美智子	中務 公子	浜口 圭子	菅本タカナ	塩崎千恵子	一万二千元	本村由利子		松島 悦子	尾西 義弘	岸本 伸一	城戸 敏幸	奥田 浩一
草鹿 純	田中 幸子	湯山 千歳	稲垣 玲子	菅原 洋子	愛葉 能久	井上東洋志	石崎 英一	●高21	中村 雅美	八木多恵子	青山 敬一	市田 隆士	上元 一泰	小林 信	坂井健太郎
二江並	武 裕	貞士 泰	田川彌八郎	吉岡 新	渡邊 源治	小阪 悦子	野上千穂子	●高22	伊規須泰司	佐野 俊幸	海嶋 達也	浦上 智行	柏本 聡之	金ヶ江宏介	島田 尚
三島 規夫	永田 吉治	泰 精孝	船崎 正昭	一万二千元	岩中 史朗	財満 久行	澤田 幸秀	●高23	中田 暁	伊規須泰司	中坂 茂雄	平川善一郎	宮田 哲	金ヶ江宏介	島田 尚
簡井 規夫	永田 吉治	泰 精孝	船崎 正昭	●高17	岡本 直文	成田 実	宮本 隆夫	●高24	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 剛	山部 鉄雄	宮田 明	島田 尚
三島 清	森本 吉道	中西 敏子	倉橋みおり	●高16	高見 一雄	鈴木 和子	西村 博子	●高25	伊規須泰司	佐野 俊幸	沖 菜穂子	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
荒木由美子	日比野恵美子	松原 英美	小寺 保子	●高15	森本 圭一	森田 潤子	鈴木 幸子	●高26	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
二村 尚子	皆川美津子	山本 紘子	毛阪 順子	●高14	中村 明子	佐藤 元子	奥村 幸子	●高27	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
山本 輝代	出良 楠夫	小田切茂彦	小室 泰孝	●高13	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高28	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
三山 輝代	上田 邦彦	古嶋 靖夫	小室 泰孝	●高12	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高29	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
河辺 司郎	蔵所 克治	古嶋 靖夫	小室 泰孝	●高11	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高30	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
細川 和彦	松尾 宏	村上 征夫	森本 忠	●高10	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高31	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
渋谷 諄子	岡村 博子	木村 至子	小村香代子	●高9	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高32	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
則武恵美子	長尾 雅子	飯田 紘子	八木 勲	●高8	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高33	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
四山 直夫	中野 康夫	森田喜八郎	八木 勲	●高7	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高34	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
六山 直夫	伊奈 啓子	梶 正道	安達寿美子	●高6	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高35	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
一万山 直夫	梶 正道	安達寿美子	安達寿美子	●高5	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高36	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
三山 直夫	伊奈 啓子	梶 正道	安達寿美子	●高4	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高37	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
二山 直夫	伊奈 啓子	梶 正道	安達寿美子	●高3	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高38	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
山原 静子	油井 康祐	笹部 忠国	安達寿美子	●高2	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高39	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
江崎紀美子	清水 康子	澤田 雄三	藤田 健一	●高1	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高40	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
森垣 房子	中村 泰三	松尾 宗好	松尾 宗好	●高0	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高41	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
山本 邦子	井上 洋治	金谷 宗敏	太平 耕資	●高-1	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高42	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
福羽 勇	田中佐智子	奥野 栄子	桐野江尚野	●高-2	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高43	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
秋山八津代	平尾 和子	村瀬 栄子	吉川 京子	●高-3	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高44	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
佐藤 泰子	今泉 紘子	西野 慎子	和田 瑞穂	●高-4	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高45	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
三千元	荒川 功	井上 猛彦	今井 康雄	●高-5	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高46	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
今田 克忠	大川 晃	長谷川洋司	藤田 幸男	●高-6	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高47	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
加集 允子	北野 洋子	小松 恭子	蓮江久美子	●高-7	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高48	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
丹生美代子	西野 由美			●高-8	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高49	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
丹生美代子	園田 義昭	伊庭 昌子	中村 稔	●高-9	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高50	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
四千元	谷 元美	辻井 正安	中村 稔	●高-10	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高51	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
五千元	福士 凱彦	山田 忠男	川端佳代子	●高-11	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高52	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
六千元	上田 幸子	釜本 詩子		●高-12	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高53	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
七千元	河相 邦昭			●高-13	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高54	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
八千元	大畠 光昭			●高-14	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高55	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
九千元				●高-15	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高56	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
●高16	川田 益就	多田 具裕	藤本 正夫	●高-16	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高57	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
本谷 浩一	吉田 勝芳	芝崎 良子	塩崎 恭子	●高-17	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高58	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
萬谷 雅子	柳沢 さよ	河村真理子	木下 圭子	●高-18	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高59	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
尾西 史子	遠藤 久代	永山 恵子	路熊 操	●高-19	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高60	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
岩間 慎子	藤原 慶子	青木 和代	林 紀子	●高-20	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高61	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
山崎千鶴子	田原 淳子	島田 知子	平田美沙子	●高-21	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高62	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
林 みどり	岡本 和子	渡辺沙洪子	岩田 悦子	●高-22	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高63	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚
堀 公子				●高-23	大塚 章子	今泉 元子	奥村 幸子	●高64	伊規須泰司	佐野 俊幸	森田 善博	山田 弘子	溝辺久美子	国岡 良子	島田 尚

千円	千円	六千円	●高40	千円	三千円	●高41	千円	二千円	五千円	●高42	千円	二千円	三千円	●高43	千円	二千円	六千円	二万円	●高44	二千円	二千円	●高45	二千円	三千円	●高46	千円	二千円	三千円	五千元	●高48	千円	南 玲子	後藤田 稔	●高49	千円	千五百円	二千円	五千元	●高50	千円	二十円	●高51	千円	平松 昌子	六千円	●高52	千円	二千円	●高53	千円	●高54	千円	二千円	●高55	二千円	●高56	千円	三千元
杉山 武司	山田 恭	小澤 昌治	井原 真琴	佐藤 修	酒井 智江	日隈 昭代	北之坊誠人	浦部 修	神谷由美子	蘆田 知子	河井 早苗	平野 喜三	森下 英利	西谷 岳	池田 圭一	後藤田 崇	中嶋 康雄	磯崎 知美	上垣 一郎	嶋 亜希子	榎本 誉士	石坂 忍	荒川 深幸	中山恵美子	清水 智枝	古川 貴弘	山本 竜	清水多希海	松下 聡紀	村山 純一	戎野由美子	馬越 有香	平野 宏明	大石 誠悟	山内 淳	金納 徹	平井健一郎	齋藤 雄太	野平 亜季	伴野 聡美	田平 暁亘	吉兼 妙	加藤 智子	宮川 由介	佐々木奈央	恒田 麻実	大河原由梨	田中 良子	矢野 倫子	柴田 記子	岡本 絵奈	十倉 伸二	小西 明	藤原 薫	乾 理加	上田 綾子		

松葉 悠子	五千円	●高57	下飼 英明	藁川 瑛太	萩原 文子
塚本 邦雄	二千円	●高58	片岡 誠	幸林奈津子	
柴田 綾	三千円	●高59			
英 嘉孝	千円	林 香織	藤井 恵	片芝麻里奈	村田 都
内田 智之	六千円				
秋山 真二	二千円		只野 正隆	西川 圭佑	林 憲太郎
小笠原 翔	●高60			木村 友彦	藤井修太郎
谷口遊津代	千円	北山 翔子	岸岡 誠	中川 友貴	樂木瑠里子
石塚 智也	●高61			八木 詩織	
兼定 祐里	千円	吉田 健	樽井 恵	高山 祐紀	野尻 直哉
樽井 恵	千二百五十円			萩原 正子	
野村 直樹	●高62			中川 貴裕	片山 瑳
尾上 純弥	千円	夫馬ひな乃			
三原 遼	千九百九十二円				
尾木 公亮	二千円			丹野 堅次	
匿 名	四千円				
緒方 健一	●高63			酒井 宏太	樽井 研人
廣川 邦臣	千円	土佐 史章		近藤紗恵子	中嶋 美貴
松本 莉世	林田 京子				
明山 和浩	二千円	谷口 由佳		數井 晶典	衣笠 紗季
					吉田 正明
笠村 剛	三千円			長谷川大悟	
津田 利男	●定3				
田中 久雄	●定4				
久保 浄	千円				
山田喜久子	二千円				
生貝 政徳	●定5			今中 孝	
塩田 廣一	●定6			宮井末次郎	高田美代子
磯邊 延宏	二千円				
高取 保夫	三千円			中川 豊	
木田 隆幸	五千円				
長澤 寿一	●定7			紅山 英世	萩内 省吾
諸井 清二	三千円			佐藤多美代	
川勝 義美	四千円			岸本 弘	
岡島 勇	五千円				
関谷 武	●定8				
田邊 昭夫	六千円			野田 忠勝	
岩室 久栄	●定9				
栗津 修巳	二千円				

●定10	三千元	中本 賢一	
●定11	三千元	鶴見 暁子	
●定12	三千元	田中 敏隆	
●定13	三千元	井上 文三	
●定14	三千元	伊美 修	
●定15	三千元	四之宮博子	
●定16	三千元	佐藤 行英	
●定17	三千元	名越 紀男	
●定18	三千元	中岸 澄江	三秋洋志子
●定19	三千元	大岡美智子	
●定20	三千元	堀本五十鈴	
●定21	三千元	松本 繁嗣	
●定22	三千元	町田富貴子	
●定23	三千元	岡部 保	中村 佑一
●定24	三千元	前田福太郎	
●定25	三千元	田中 治	堀 健次
●定26	三千元	日紫喜富美	
●定27	三千元	出口 敏雄	
●定28	三千元	生島 治	
●定29	三千元	玉岡 浩正	
●定30	三千元	宮田 和子	
●定31	三千元	山口 節子	
●定32	三千元	小柳つぎ江	
●定33	三千元	作本由喜恵	
●定34	三千元	深江登美子	古田 絹枝
●定35	三千元	岩永よし子	
●定36	三千元	生田 清子	
●定37	三千元	中谷 健人	

	高女 1期～ 8期	併中 1期～ 2期	高 1期～ 64期	定 1期～ 62期	定通併修 1期～ 12期	旧職員	現職員	現職員 (定時制)	合計
会 員 数	2,062	229	28,191	4,421	135	840	55	37	35,970
物 故 者	482	18	880	106	0	184	0	0	1,670
住所不明者	301	45	7,925	2,409	36	245	3	0	10,964
住所判明者	1,279	166	19,386	1,906	99	411	52	37	23,336
判 明 率	62	72	69	43	73	49	95	100	65

尚和会会員数
(単位・人)

「卒業5年以内の皆様へ」

表紙にてご案内しております尚和会総会には毎年、懐しい担任の先生方も参加されています。2008年（高60期 定58期）以降の卒業生の方は会費は2000円です（半額）ぜひ同期の方をお誘いあわせてのご参加をお待ちしております。

ニュージーランド テカポ湖

ハワイ マウイ島 ハレヤカラ

鹿児島県 輝北町

韓国 50cm反射式天体望遠鏡

協栄産業株式会社

〒530-0012 大阪市北区芝田2-9-18
 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-5
 URL <http://www.kyoei-dome.com>

TEL 06-6375-9701
 TEL 03-3526-3366

代表取締役
 谷 元美 (高15期)

平成二十三年総会・懇親会

行事担当副会長 高校15期 上田 幸子

平成二十三年度の総会・懇親会は五月十五日（日）に、ホテル・アイボリーにて開催されました。

来賓・会員・アトラクション参加者を含めて八十九名のご参加をいただきとても盛会裏の中実施されました。参加者の中には夜行バスで遠く横浜から朝早く駆けつけて下さった34期生の方もいらつしやいました。

二十三年は三月十一日に東北に大震災が起こり多数の方が被災されました。開会の前に、昨年亡くなられた恩師や、同窓会会員と共に被災された方々に対して黙祷をささげました。

大畠会長の挨拶に続き、小山校長先生からご祝辞をいただき、桜塚高校の生徒が学校だけでなく保護者、地域、先輩達とお互いに学びあうオール桜塚構想について熱く語られました。

その後各委員会の事業計画、二十二年決算報告、二十三年度予算報告が行われ無事総会は終了、後半のアトラクション・懇親会へとうつりました。

今年のアトラクションは桜塚高校の卒業生出羽真理さん（24期生）のピアノ演奏と中務幸彦さん（25期生）のチェロ演奏をおとどけしました。

最初はエルガー「愛の挨拶」をピアノとチェロのコラボレーションで始まり、次にバッハの無伴奏チェロ組曲を中務さんがチェロの独奏で低く重層で厳かな雰囲気会場を満たし、その後出羽さんがピアノ独奏でショパンの軍隊ポロネーズを力強く軽快に演奏され



ました。サンサインズの白鳥や日本の懐かしい歌曲、浜辺の歌などを演奏され会場いっぱいになんて合唱もして楽しめました。司会は昨年から57期生の、柴田綾さんをお願いし、さわやかに、楽しく演奏会は進行されました。

懇親会の前に2010年11月に大阪府代表で出場された野球部OBの監督

さん達3名が尚和会の応援に對してご挨拶されました。引き続き懇親会がなごやかに始まり、皆さん久しぶりの旧交をあたため食事と会話を楽しみました。

お楽しみ抽選会のあと、最後に会場いっぱい校歌を斉唱し、あらためて桜塚高校の卒業生であることを誇りに思いながら閉会。全体記念撮影をして解散いたしました。

さて二十四年度の総会は、今年五月二十日（日）ホテル・アイボリーで行われます。アトラクションは桜塚高校の二十五期生・末廣孝子さん始め、8名の女声アンサンブル「プティ・タ・プティ」の演奏をお届けします。

この女声アンサンブルの皆さんは平成元年結成、多彩な編成で、レパートリーも宗教曲からポピュラーまで多岐にわた

り日本歌曲やオペラアリア（歌劇・椿姫より乾杯の歌）などを、歌っていたく予定です。ぜひ同期の皆様はもちろん、お友達お誘いあわせ、多くの方々にご参加いただきます様にお願いいたします。



ピアノ演奏 出羽真澄さん（高24）

総会出席者

大畠会長挨拶



チェロ演奏 中務幸彦さん（高25）

学校関係来賓者

編集後記

広報のお手伝いを初めて2年目を迎えました。最初は本当に原稿が集まるか心配をしていましたが蓋を開けてみれば心配どころか本当にたくさん原稿を頂きました。桜塚高校を卒業してもう20年近くになります。

学校に在学時分から人と同じ事をしたくないという性格で学校を出てからビジネスと言う事になつて事業を立ち上げてはその事に対して満足せず5年前に東京から本格的に大阪に戻り家業の印刷業を引き継ぐ事になりました。

おとなしく親父の印刷会社を引き継げばいいものを何か物足りなさを感じ東京時代に色々勉強をさせていただいたすべて会社は自らをプロデュースをする事が一番だと言う事。またまた親父の会社自体を今までにないような感じにしてしまふ僕の信念「非常識が常識」という言葉の如く昨年度は十数回の新聞取材とテレビ番組の出演と今までにないような「非常識」を常識にして大阪の印刷会社・デザイナーの間で暴れまくりました。その甲斐もあり私の会社には本当に連日たくさんの方が訪れ集い・笑い・という私の理想とする会社を現実化してました。

これもそれも誰にも負けたくないという根性は桜塚高時代に培われたものだ本当に感謝をしています。今回の会報もたくさんの原稿を頂いた事大変感謝をいたします。

今後とも微力ながら尚和会の発展のため頑張っていこうと考えています。

広報担当副会長
高校三十七期 高崎 健治